

1. 2015年1月の便り 年の初めに 2. 今一番気になっている言葉など収録

1. 2015年1月の便り 年の初めに



和鉄の故郷 記紀神話の淡路島 紀淡海峡の夜明け



和鉄のふるさと 記紀神話の淡路島 紀淡海峡の夜明け
「未」の周りを迎えました
今年も笑顔の一年になりますよう
激動の時代に「まあええか 元気出してゆこう」と心は行ったり来たりです
娘・美和作

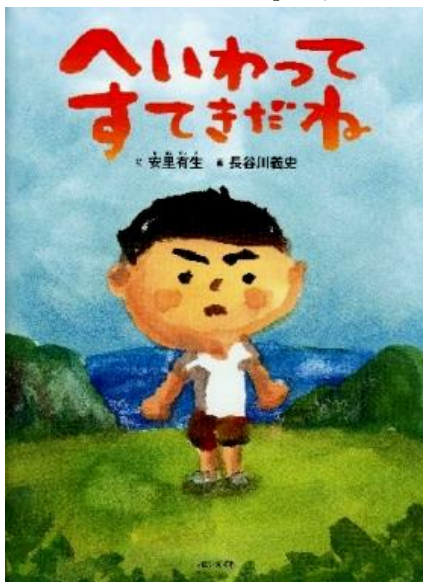


娘・美和 作

激動の時代 「未」の周りを迎えました いつも気にかけていただき感謝です
「まあええか 元気出してゆこう」と心は行ったり来たり
今年も笑顔の一年になりますよう よろしくお願ひ致します

2015年 1月1日 from Kobe by Mutsu Nakanishi

『へいわってすてきだね』 詩 安里有生 絵 長谷川義史



へいわって なにかな。
ぼくは、かんがえたよ。
おともだちとなかよし。
かそくが、げんき。
えがおであそぶ。
ねこがわらう。
おなかがいっぱい。
やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。
ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなくにうまが、ヒヒーンとなく。
みなとは、フェリーがとまっていた、
うみには、かめやかじきがおよいでる。
やさしいところがじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのころから、
へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
「ドドーン、ドカーン」
はくだんがおちてくるこわいおと。
おなかがすいて、くるしむことも。
かそくがしんでしまって なくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。
みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかそく、
へいわながっこう、
へいわなよなくにじま、
へいわなおきなわ、
へいわなせかい、
へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

2. 今 一番気になっている言葉です

◆ ヒューマンを特徴づける「利他の精神」

「利他」なんていうと「何をええ恰好して・・・」と言われそうで、口にできなかった言葉ですが、人間が人間たるゆえんが、この「他人を思う心」。

この精神があってこそ 地球上で人間が生き延びてきた。それを真面目に考える時だ。

以前にも紹介しましたが、今急激な情報社会の中で、そんな余裕すら失われつつある時代に見える。そんなことを思いめぐらす年の初めである。

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合っていたからだという。そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。

激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。

ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

天声人語

おもしろい実験をネットで見
た。2本の高速道路が合流する
場合、どうすればすんなりと車
線変更できるかを探っている。
「渋滞学」の生みの親として知
られる東大の西成浩裕教授が説
明役だ▼車の代わり人間が二つの道を
歩く。合流する直前まで互いが見えない
状況ですぐに車線変更しようとする
と、ぶつかりそうになったり、詰まったりす
る。危ない。そこで合流地点から一定の
距離を車線変更禁止とする。するとその
間、互いを見合い、譲り合いながら車線
を変えられるようになる▼われ先に走る
よりは、まわりとコミュニケーションを
取りながら運転するほうが、結果的に速
くなる。車間距離を十分に取ることもな
どともに、道路の流れをよくするための
知恵である▼この実験は「利他的精神実
験」と銘打たれている。西成教授が強調
するのは、他のドライバーへの思いやり
だ。目先のプラスばかりを追わず、長期
的視野を持って。情けは人のためならず。
損して得とれ、とも。頭ではわかってい
ても、なかなか実行できないところが凡
夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッ
シュに巻き込まれた方も多にない。
きょうも混雑が続くだろう。渋滞のスト
レスを長時間受け続けるつらさはいかば
かりか。どこにも出かかずじっとしてい
た身には、お気持ちを押さえることしか
できない▼大型連休が終わる。朝の駅の
雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立
って、ともすると前に出たがるのを自
戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

2014. 5. 6. 朝日新聞 天声人語より

私がなにを思ってきたか それがいまの私をつくっている
あなたがなにを考えてきたか それがいまのあなたそのもの
世界はみんなのところで決まる 世界はみんなのところで変わる
谷川俊太郎 「こころの色」より

現在の急激な情報化社会進展の中で、格差・差別・貧困がもたらす争いも急増し、武器など力を背景にそれを突破することはもはや困難で、解決の糸口さえ見つからぬ状況になってきた。

これを突破できる唯一の知恵はこの ヒューマンがこの多難な地球上で生きながら得る原動力だった「利他的精神」。それを提唱する人が数多くいる。もっとも 日本で正面だっているのは、宗教家か教育者と相手にもされないが……。一方 2020 年東京オリンピックをビジネスチャンスととらえ、それこそ「おもてなし」を声高に言う輩が多い。でも そのほとんどは その中身を理解せず、薄っぺらなマニュアル本よろしく、形だけのポーズでこれを利用する。そこには 利他の精神が根底にある「おもてなし」の心を全く理解せず、旧態依然とした力・金権体質が見え隠れする。言葉と言葉の中にある本質理解 その乖離が日本では IT 社会の進展とともに、益々広がっている。

今 これに歯止めがかからぬと 日本はまたぞろ世界の孤児になりかねない。

そんな監視役を担えるのは 経験豊富でしかも 日本の高度成長と貧困時代を経験してきた高齢層にしかない。

年寄は静かにリタイヤなんて 言って居れぬ時代。今こそ 年寄がものを言わねばならない。

谷川俊太郎さんの詩が グサッと胸に突き刺さる。

年寄はまだ退場してはならぬ。俺流の中に自分の生きてきた道で培った判断力を行使せねば……。

俺流というと すぐに自己流とごかいされそうですが、もちろん仲間・家族がいての俺流である。

◆ ジョージ カーリンの「いつまでも若くいるコツ」

今年は「未年」 私の周り年 高齢者の仲間入り。

行動半径も小さくなりつつある今、どんな生き方が一番なのだろうか？

相変わらずの勝手気ままな風来坊生活に みんなどうしているのだろうか？ と。

久しぶりにジョージ カーリンの「いつまでも若くいるコツ」の動画を引っ張り出して、笑ってしまった。
バックに流れるBGMが美しく、高齢者にとって、彼が言う「示唆に富んだ楽天性」が楽しくて、
時折 引っ張り出しては、眺めています。

「こんだけ 楽天的に楽しく暮らしたら本当に楽しいやろうなあ・・・」と。

でも 随所に 利己的にならずに 仲間と暮らす知恵がある。 ちょっとづつでも胸張って 前向いてと。
年寄には厳しい時代 こんな楽天性や仲間に助けを求めるのも必要か

ジョージ カーリン氏からのメッセージ

「老いを嘆くことはない。100才になったら 赤ちゃんに戻れるんだから……
そして 忘れてはいけない。

人生とは、自分が息を吸う数ではなく 息を吐く瞬間で測定するものです。

充実した毎日を生きましょう!!

」と

《 いつまでも若くいるコツ 》 by ジョージ カーリン

1. 年齢、体重、身長など、どうでもいい数字は気にしないこと こんな事は医者任せましょう。
そのために医療費を払っているのですから。
2. 元気な友達とだけ付き合うこと
愚痴しか言わない人といると、こちらの気持ちも暗くなります。
3. 生涯学習あるのみ コンピュータ、工芸、ガーデニング、ハム無線、なんでもよいので学ぶ姿勢を持ちましょう。
脳を怠けさせない事。怠けた心には、衰えという悪が宿ります。
4. 単純な事を楽しみましょう
5. 沢山、長く、大きな声で、お腹が痛くなるくらい笑いましょう
6. 悲しみ、耐えて、そしてまた進む 涙も出るでしょう。しかし一生添い合ってくれるのは、自分自身です。
命ある限り、自分の人生を歩みましょう。
7. 好きなものに囲まれて暮らしましょう
家族、ペット、思い出の品、音楽、植物、趣味、何でもいいですから好きなものに囲まれて暮らしましょう。
家は自分の居心地の良い場所なのでから。
8. 体を大切に！ 今健康ならそれを維持し、悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
9. 後悔しないこと ショッピング、隣町、外国、とにかく後悔する気持ちを忘れさせてくれる場所に出かけましょう。
10. どんな時でも、大切な人に「愛している」と伝えましょう

そして忘れてはいけない事: 人生とは、自分が息を吸う数ではなく息を吐く瞬間で測定するものです。
充実した毎日を生きましょう!!

今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと

好奇心さえあれば・・・と前向いて

お互い笑顔で 前向き思考 元気で乗り切って行きましょう

2015年1月1日 From Kobe

Mutsu Nakanishi



寒さに震える朝 でも春の芽も 2月の便り

1. 《節分の鬼》 鬼にされたたら衆ほか和鉄の道掲載リスト
2. 大阪 うどん屋のかぜ薬「うどんや風一夜薬」

1. 《節分の鬼》 鬼にされたたら衆ほか和鉄の道掲載リスト

《 節分の鬼 》 に思いをはせています 寒さに負けず 元気で今を

「鬼」伝承やことわざに縄文からの「日本人の奥深い心情」を見る「福は内 鬼も内」

◎ 節分の鬼「仲間としての鬼」-鬼にされた たたら製鉄集団-

<http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1402oni00.htm>

◎ 「日本各地の鬼伝説」 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf>

2015 年が始まりましたが、年初から 嫌な事件が起きたり、くらい暗い話ばかり。

明るい平和な時代が一日も早く来ることをねがっています。

2. 大阪 うどん屋のかぜ薬「うどんや風一夜薬」

「大阪人は 風邪をひくと 熱いうどん、切り傷とヤケドにはアロエ。 どの家もそうです」

毎日 寒さが厳しく、インフルエンザや風邪がはやっています。 体調管理にはご留意ください

先日 TVを見ていたら、「大阪人は 風邪をひくと 熱いうどんを食べ、切り傷とヤケドにはアロエ。 どの家もそうだ 」と出演している大勢のしている大阪人たちで大盛り上がり。

大阪人は幼い頃 誰しも風邪をひくと、学校が休め、熱いうどんをうどん屋から運んでもらって、それが楽しみだった経験がある。「ほんまかいな?」と家内が言うのですが、ほんまです。 私にもそんな経験がある。

番組ではその後「うどんをおかずにして、食べる混ぜご飯。 これも大阪の定番」とこれにも大盛り上がり。

私たちの時代には「うどんと丼飯(白ごはん)」。

高校時代には 食堂でうどんを頼んで、弁当箱一杯の白飯をおかずで昼食にしていた仲間が沢山いた。

今でもうどんが出てくると「白飯」。 うどんと一緒に食べる白飯は本当に一番。 それも冷や飯が……。

大阪では焼きそばも白飯がつく。 昼食の定番定食だ。

大阪では誰しもそれを気にしないが、他の地では 目を丸くしてみられることが多い。

粉物の文化の地大阪では たこ焼きやお好み焼きが語られることが多いのですが、大阪人には「うどん」にも強い愛着と思いがあがる。 そういえば 落語の時そばも その元は大阪落語の「時うどん」である。

大阪に「うどん屋の風邪薬うどんや風一夜薬」がある。

創業 100 年を超え、かつてはうどん屋に置かれていたかぜ薬。

うどんと一緒に体があたたまる「しょうが湯」

うどんたべてこの生姜湯飲んで一晩ぐっすり。

昔から大阪のうどん屋にあり、また住吉大社の縁日で売られていて 大阪や住吉さん界隈ではだれもが知っていると。 数年前に教えてもらって、背筋が寒い夜にはこれを飲むとポカポカ。 通販もあるようですが、最近 神戸の東急ハンズの入口で旗を立てて売っているの、仲間に紹介すると「大阪では有名や」と知っていました。 最近ではさぬきうどんに押されっぱなしの大坂のうどんですが、大坂のアイデンティティの一つ。

私と同じ思いを「うどん」に持つ御仁が多くいるのを知って

嬉しくな って、寒さ厳しい 2 月 ちょっと紹介です。



【From Kobe 2015 年 3 月の便り】 2015.3.5. by Mutsu Nakanishi

From Kobe2015

3.

◆ 弥生 3 月 神戸の春便り

◆ ぶつぶつ from Kobe

1. 新聞の紙面作りに疑問符 ? 私の新聞感にあわなくなった
2. 造船大国復活うれしいニュース

梅の香りがほのに漂うひかる海
街ではイカナゴのくぎ煮のにおい 神戸の春の到来です



陽光にきらきら光る須磨の海 神戸に春の訪れを告げるイカナゴ漁の船・海苔船そして大型の航行船などが海峡を行く
待ちかねた春 神戸の春の到来 輝く海に 若者がサーフィンポートを漕ぎだしてゆく

須磨海浜公園 & 須磨網敷天満宮で 2015.2.27.



2 月 26 日 神戸に春を告げる「いかなご漁」解禁 街にはくぎ煮のにおいが通りいちめん漂い、
いかなごを求める長い行列ができ 街のあちこちで 釘煮談義の笑顔 一気に街はなやいだ雰囲気
その日のイカナゴの値段と釘煮の炊き方が これから しばらくは街一番の情報交換の話題に
我が家でも早速大きな鍋で 今年の釘煮がスタート 新子の釜揚げ
こっちはコップを準備して「釘煮」と「釜揚げ」が、食卓に並ぶのを待つ
「春が来た」のうれしい一杯

玄関にはお雛様も飾って うれしい春迎え
相も変わらずの 3 月 春迎えですが、
孫たちもすすく うれしい 3 月の到来です。

2015.3.1. 神戸 by Mutsu Nakanishi



◆ ぶつぶつ from Kobe [1]

1. 新聞の紙面作りの姿勢に疑問符？ 私の新聞感にあわなくなった

20105.2.20. by Mutsu Nakanishi

朝日新聞が従軍慰安婦問題などの誤報問題を起こして以来 政治・報道そして世論から厳しい批判を浴びるようになって以来、紙面がどうもおかしい。もう 限界に。

テレビのニュース番組やスポーツ番組が総芸能化し、NHK までもが、その路線。

情報化社会とは 客観事実情報などくそくらえと云わんばかりの押しつけ情報がメインの社会なのか・・・

誰の目にも あからさまな政治の報道・情報への介入・操作は目を覆う。

それに引き換え 新聞だけは「プロの記者が冷静に事実を記事にし、新聞社の名のもと冷静判断された記事が紙面を飾る。 読者に正確に事実を伝え、読者に判断材料を与えてくれる」。と思ってきたのですが、どうも そんな新聞への思い入れは過去のものと思える事態になっているのだろうか・・・。

朝日新聞の例でみると

1. 紙面を開くと広告それも全面広告・半面広告の中に記事が埋もれ、しかも広告が記事と見まがうスタイルになっているから始末に悪い。社会面 スポーツ面などページをめくらないと記事が続かない。
「広告などまとめて どけてくれ!!」 読みにくい。
2. 紙面構成が広告に負けてしまったことで、クルクルと紙面構成が変わり、しかも 何らかの理由で記事の数が激減している。 この原因は色々類推されるが 読者には今もって説明はない。
紙面構成が変わらざるを得ないのか・・・
この1月 2月の朝日の三面記事・スポーツ欄のあまりにもひどい紙面構成。記事の作り方。
もう 限界だと。
3. 新聞に読者は何を期待するのか[1]
上記にも書いたが、定期購読者にとって、朝一番と新聞を広げて見るのはなにか・・・
今日一日 いろんなコミュニケーション・行動のため、自分に必要な知識を頭に入れるのが一番。
それは 社会・経済・政治・国際・スポーツ・芸能・教育・地域 等々 どの分野にとっても同じで、意見を聞きたいのでなく、広く抜けのない事実の数々が知りたいのである。
そんな中で 記事の数の激減・スタイルがころころ変わる記事内容や紙面構成は読者にとって致命的だ。
読みにくいことこの上ない。
4. 新聞に読者は何を期待するのか[2]
記事数の激減がどこへ行ったのかというと広告と意見・解説記事 それも外の人を書く記事がほとんどである。
新聞社の長きにわたる報道姿勢を信用し、意見・解説を読む。 でも 最近の署名記事を見るとよく吟味されたというより、現場報道のコメントと同じような安易さ 仲間内??
また、朝日に限って言えば、何か使命感を背負っているといった感じを受ける意見・署名記事があまりにも多く、その分 記事の数 紙面構成を日替わりのムチャクチャなものにしていると。

事実情報と意見両方が必要であるが、その情報がどちらかに偏ったり、混合されては 読者にとって迷うばかりである。新聞社の信用が大きく揺らぐ根幹であろう。

苦しい新聞社経営の中で、批判をさらされる朝日新聞がどうも そんなドツボにはまり込んでいるように見える。悲壮感ただよう紙面づくりとも読み取れるのですが、「天声人語」など長年親しんできたコラムを失うのは寂しいが、一旦やめて、地域・社会報道の多い地方紙に一度切り替えることにした。

他紙から眺めてみることで 報道が今どんな立場に立たされているのかを眺めてみたいと思っている。

以上 ここ1年私が抱いてきた新聞報道の紙面構成・姿勢に抱いてきたもやもや。 独りよがりや間違いもあると思いますが、私のような目で 今 新聞の報道姿勢を見ている人いるのだろうか…

もうろくしたのかもしれぬと思いながら、でも なあ・・・と。

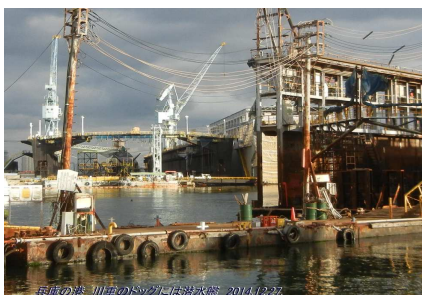
◆ ぶつぶつ from Kobe

2. 造船大国復活のうれしいニュース

重厚長大の技術が見直される時代になれば・・・・・・・・

1 月末国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表

6 年 1 0 カ月ぶり 1 月の造船の受注量が韓国・中国を抜いて世界一に



神戸 中小造船の現場が並ぶ兵庫の港の港で 2014. 12. 27.

昨年昨年 12 月末 中小造船ドックが立ち並ぶ兵庫の港境界を歩いていて、現場作業の音が響き渡る中小のドックにドック健在を眼にし、立ち話をした溶接屋のおちゃんからも、

「この境界 仕事が増えて元気だよ」と聞いて、多少懐疑的ながらうれしくなっていました。

そして、2 月末 配信されてきたデジタル新聞記事には下記の文字が躍っていました。

造船大国日本復活を恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

1 月末、国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。

さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。

日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2 0 0 8 年 3 月以来 6 年 1 0 カ月ぶりのことだ。

産経ニュース 2015. 2. 26. 【経済インサイド】

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1 月末、国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2 0 0 8 年 3 月以来 6 年 1 0 カ月ぶりのことだ。「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に 戦々恐々としている。



今治造船な島工場で建造されている約 1 万 4 0 0 0 個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい 2 万個 積みがつくれる超巨大ドックを新設する

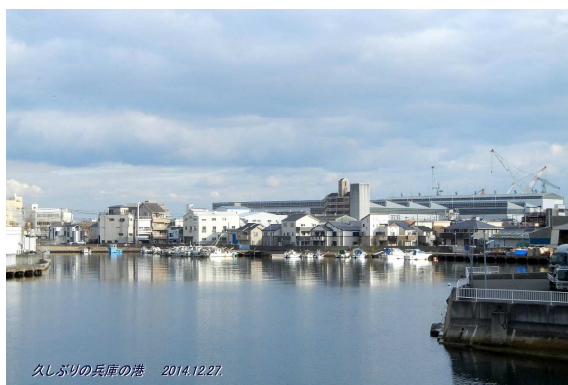
高度成長時代の先端であったが、その後は斜陽の代表とみ向きもされなくなっていた 重厚長大産業。

その物作りの代表日本の造船業が息を吹き返しつつあると聞く。

「長かった造船業が復活の動きは本物なのだ」とうれしい。

物づくりの先端と云えば電子産業や自動車産業。そして 金融や情報など虚業ばかりに眼が行く昨今、厳しい合理化をくぐり抜け、「物づくりの業」を磨いてきた重厚長大の産業。

閉塞感から脱しきれぬ日本。 短期的な視点を乗り越え、新しい突破口に重厚長大の物づくりの視点となればと期待。



<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1月末、国内造船大手の今治造船が16年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに1月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き1位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で1位になったのは2008年3月以来6年10カ月ぶりのことだ。

「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に戦々恐々として いる。



今治造船広島工場で建造されている約1万4000個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい2万個積みが建造できる超巨大ドックを新設する

16年ぶりの超大型ドック新設

今年1月29日、国内外の造船関係者は驚きの声を上げた。今治造船が台湾の海運会社から世界最大級となる約2万個積みの超大型コンテナ船11隻を受注したと発表。

さらに驚かせたのが、この全長約400メートル、幅約59メートルという超大型コンテナ船を建造するため、長さ約600メートル、幅80メートルの大型新造船建造ドック（香川県丸亀市）の新設を決めたからだ。

新ドックは月内にも着工し、2016年10月の完成を目指す。同社にとっては、新設するドックは2000年に完成した西条工場（愛媛県西条市）以来。投資額は約400億円を予定している。

同社の関係者は「超大型船の商談など世界中からの多様なニーズに柔軟に対応できる生産体制が構築できる。国際競争力に磨きをかけ、顧客の期待に応える船造りを目指す」と意欲満々だ。

この新ドック建設に敏感に反応したのが、韓国の造船メーカーだ。

特に今治が2万個積みを超える超大型コンテナ船を受注していることに相当の脅威を感じているようだ。韓国経済新聞によると、これまでウルトラマックス級と呼ばれる約1万8000個積み以上の超大型コンテナ船市場は、現代重工業、サムスン重工業、大宇造船海洋などが事実上独占してきた。しかし、そこに今治造船が割って入ることになる。

韓国経済新聞は、韓国の業界関係者のコメントとして「日本が2万個積みを建造すれば、韓国造船業の牙城が揺れる」と紹介している。中国勢も大型のコンテナ船の建造を多く手がけており、日本の動きを注視しているようだ。

6年10カ月ぶりの「首位返り咲き」

中央日報電子版は、グローバル造船海運市況分析機関である英クラークソンのまとめとして、

1月の世界に占める船舶受注シェアは日本が45.9%、韓国30.9%、中国17.6%だったと報じている。

6年10カ月ぶりに日本が1位になったのは、今治の2万個積みの超大型コンテナ船の大量受注が成長の一因として作用したとした。

そもそも1980年代は日本が世界の造船市場でトップランナーを走っていた。だが、安値受注などで中韓勢が猛烈に追い上げ、追い越した。ただ、熾烈（しれつ）な競争を繰り広げる中、中国や韓国の新興メーカーは生産規模を大幅に拡大。この結果、造船市場は需要をはるかに上回る供給過剰になり、造船会社の採算は悪化した。そんな中、日本の造船メーカーが息を吹き返しつつあるのは、「アベノミクス」による円安で受注競争力が回復したことと、さらに数年にわたる構造調整、いわゆる統廃合でコスト競争力を高めたことが大きい。

もちろん品質が高く、納期をしっかりと守るといった日本企業の優れた面が支持されていることもある。

統廃合で競争力強化

統廃合の動きとしては2013年に、今治造船と三菱重工業がLNG船舶部門を切り離し、LNG船を専門に製造する「MILNGカンパニー」を設立。同年には、アイ・エイチ・アイマリンユナイテッドとユニバーサル造船が合併し、世界4位となるジャパンマリンユナイテッド（JMU）が誕生した。

さらに、昨年10月には、名村造船所が佐世保重工業を子会社化し、国内ではJMUに次ぐ規模になった。三菱重工業は、戦艦「武蔵」を建造した長崎造船所で手掛ける造船事業を、今年10月1日付で分社すると発表。

LNG船などを建造する全額出資会社と、船の部品となる船体ブロックを製造する事業会社を設立することを決めた。

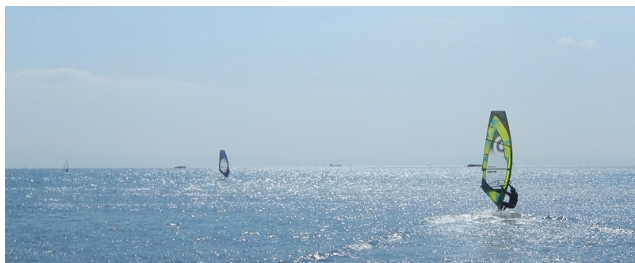
こうした再編やコスト改善に向けた改革に加え、「円安で15%は（日本船の）船価が下がった」（市場関係者）ことも加わり、急速に競争力を高めている格好だ。このため、とくに液化天然ガス（LNG）船や超大型コンテナ船など高付加価値分野で日本と直接競合することになる韓国勢は焦りを隠せないでいるわけだ。

これまで、海外勢に差をつけられてきた日本勢だが、今治造船の大型ドック建設を機に、他の国内メーカーも追随するような動きが出てくれば、いよいよ韓国勢には脅威となる。

中央日報電子版によると、サムスン重工の関係者は「日本の造船業の最も大きな弱点は中小型の造船所が多く、今まで建造した船舶の最大サイズが（コンテナ船の場合）1万4000個積みだった」とした上で「超大型ドックの建設で2万個積の建造までが可能になれば、いつでも韓国に追いつく可能性がある」と、かつての「造船大国日本」の復活に神経をとがらせている。

インターネット 産経ニュース 経済インサイド 2015. 2. 26. より

<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>



神戸に春を告げる いかなご漁 解禁 2015.2.26.



【2015 年 4 月 From Kobe】

4 月 新生の息吹 元気に 神戸の便り

1. 4 月 5 日 イースター・復活日に寄せて 今頭に浮かぶこと
2. 無騒音・無振動杭打ち工法の新たな進展・展開にびっくり

TV 番組「夢の扉+」3 月 22 日 杭打ち革命

From Kobe2015

4.



毎日眺める若草山・須磨アルプス 芽吹きで モノトーンから若草色へと変化を見せる 2015.3.26.



西神戸 神出 雌岡山梅林で 2015.3.16.

まだ 暖かかったり寒かったりですが、桜の便りも聞かれるようになり、野山では満開の梅に春の芽生え。モノトーンから若草色へとその姿を変化させている。街には新しい門出を迎えた人たちの歓声が響き、街行く人たちもなんとわなしに華やいで見える。「新生の息吹」がそこかしこ 嬉しい 4 月。新しい門出の若者たち そして再出発を志す人たちにエールを送りつつ、こっちも年寄りぶってはいられないと。

4月5日はイースター・復活日
毎年 復活日が来るとキリストの受難に思いをよせ、思いもあらたに 新しい出発を誓う
今年も「希望」の花言葉を持つアーモンドの花を白いユリ・イースターエッグと一緒に送ります



アーモンドの花
花言葉は「希望」「愛」「優しさ」



雌岡山梅林で見かけた風景

日本では「同行二人」とよく言われるが、クリスチャンの私は「神とともにいまして」と自らを眺め、励ます。

共に生かされている私たち「ヒューマン」
自らをふりかえり、わが身を感謝し、
家族・周りの人たち・地球の人たちに思いをはせ、
希望の明日、そして世界平和を祈る

今年こそ 皆が分かち合える
明るい平和な年になってほしいと願っています。

そんな思いを「アーモンドの花」に願いを込めて

2015年 イースター
From Kobe by Mutsu Nakanishi



アーモンドの並木道 魚崎運河沿い「水辺の遊歩道・うおざき」 2015.3.26.

1. 4月5日 イースター・復活日に寄せて 今頭に浮かぶこと



今年も「希望」の花言葉を持つアーモンドの花を白いユリ・イースターエッグと一緒に送ります

毎年 復活日が来るとキリストの受難に思いをはせ、思いもあらたに 新しい出発を誓う

「同行二人」とよく言われるが、クリスチャンの私は「神とともにいまして」と自らを自省し、励ます。

共に生かされている私たち 「ヒューマン」
自らをふりかえり、わが身を感謝し、 家族・
周りの人たち・地球の人たちに思いをはせ、
希望の明日、そして世界平和を祈る

今年こそ 皆が分かち合える
明るい平和な年になってほしいと願っています。
そんな思いを「アーモンドの花」に願いを込めて



人が人たるゆえんは 他の動物と異なり、
唯一人のみが「相手の表情を読み取り、 相手をおもんぱかる
ことができる」と。

人類誕生から約800万年 厳しい地球環境激変の中 何度
も遭遇した絶滅の危機を脱しえた原動力が「相手をおもんぱかる心」
であり、そしてそこから得た数々の生き抜く知恵が人類絶滅の窮地を救ってきた。

マネー経済の著しい展開の中で、20世紀は競争と格差の社会 そして戦争の世紀と言われ、21世紀になった今も、
さらなる IT 情報社会の高度発展の中で、競争と格差はさらなる争いを生み出し、「今ほど平和を考えねばならぬ時
はなし」と思う。

今日もラジオから「競争から共生へ 21世紀の舵を切ろう」との呼びかけ
が聞こえてくるが、政治・経済の話が入ると 一機に「現実ばなれしてい
る」と批判し、とりあわぬ人も多い。でも 私はそうは思えない。
今までにどれだけ、人・仲間・みんなに助けてもらったことか・・・と。

何でも手に入る高度情報社会の中で、言葉とは裏腹に その知恵を置き去り
にする言動が目立つ日本

今一度 この人間の知恵を今一度 行動の中心に置いて考えてみたい。

今年こそ 皆が分かち合える 明るい平和な年になってほしいもの。

「愛・信頼・希望 そして仲間」は今を元気に生きてゆく支え

ただ、ひたすらに 好奇心を失わず 前向いて と思っています。



へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなががいっぱい。やぎのんびり
あるいてる。ちょうめいそうがたくんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

安里有生／詩 長谷川義史／画



2015年 4月 イースターに寄せて

By Mutsu Nakanishi

2. 無騒音・無振動杭打ち工法の新たな進展・展開にびっくり

TV番組「夢の扉+」3月22日 杭打ち革命

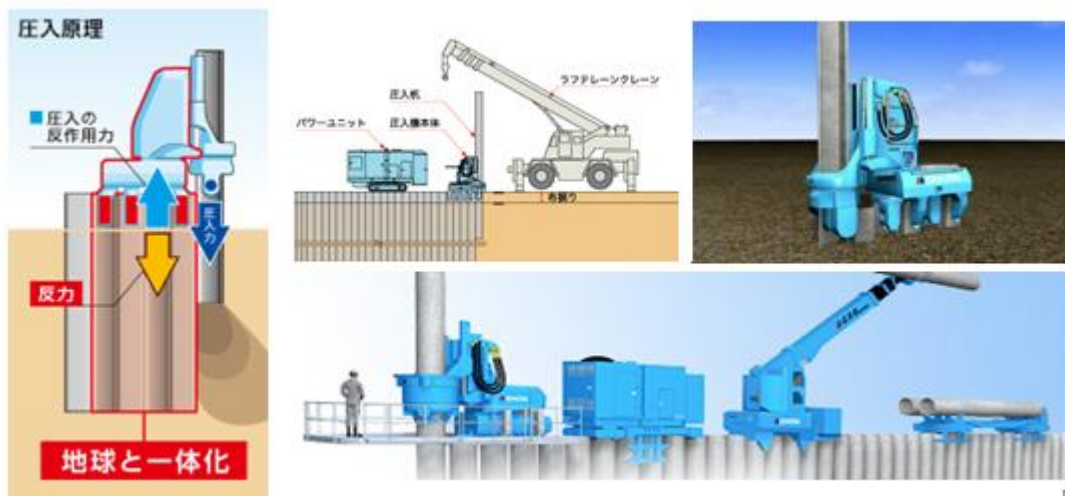
「巨大津波でも、“絶対に壊れない” 堤防を作れ！」

色々な業界・ジャンルで「未来の夢」を目指す人やプロジェクトを紹介する番組「夢の扉+」

こんな技術があるのか… こんな発想があるのか…といつも見ている番組。

3月22日「杭打ち革命 『巨大津波でも、“絶対に壊れない” 堤防を作れ！』」が放送されていました。

画面を見て、「そういえば、街で見る杭打ちも無騒音・無振動になったなあ」とそんな工法の紹介かと思いながら見始めたのですが、そうではなく、この無騒音・無振動の杭打ち工法の特徴・メリットを生かして、工法から構造物そのものまでも変革し、東日本大震災被災地の早期復興工事の切り札となるばかりか、社会インフラや街の再開発の新しい構造物の創造構築にまで、その用途の夢はひろがっているという。びっくりしました。



「すでに地中に押し込まれて地球と一体化した杭、その杭打ち装置を載せ、杭をしっかり掴んで反力とし、次の杭を静荷重で地中に押し込む」との原理で、地中に打ち込んだ杭を複数本を掴むことで「地球と一体化」したことになる、大きな力を出すことができる。そしてその力を利用することで、大きな静荷重で押し込み、杭を地中にお振動・騒音のない無公害杭打ができる。そして、これを実現できるコンパクトな無公害型の油圧式杭圧入引抜機を開発して、現場に投入し、圧入機本体と電源のほか、杭材を圧入機本体に建て込むためのクレーンが1台あれば施工できるという無騒音・無振動の連続杭打ち圧入工法を完成して実用化し、現実の工法として大きな成果をあげている。

連続して地中深くまで打ち込んだ杭(鋼管杭・矢板など)を立ち並べて壁を、コンパクトな作業空間でスピーディに、無騒音・無振動で作れる工法は場所・環境を選ばず頑強な構造物の形成にはもってこい。

構造基礎の荒っぽい杭打ちの工法からの視点変更で、夢の土木建築工法へ。そして さらに この工法でしかできぬ新しい構造物・社会インフラへ夢の用途が次々と膨らんでゆく。



無騒音無振動圧入法



襲われた巨大津波からも守れた鋼板杭列の壁

巨大津波に襲われた巨大なコンクリート堤防が、もろくも破壊された中、この地中深く打ち込まれた鋼管杭の壁が破壊されることなく、この津波の巨大エネルギーをがっちりと受け止めるなど誰も考え得なかった。

考えてみれば、「強度と靱性」を兼ね備えた「鋼」が大地の奥深くまでがっちり根を生やしているのである。

そういえば 奈良と大阪の県境の大和川 亀の瀬の大地すべり地帯でも 巨大な杭(鉄筋コンクリート杭)が10 数年かけて何本も地中深く打ち込む作業が続いている。 同様の耐震・耐津波性を有する構造が短期に連続して、環境をいわずにできるとなると夢の技術。 被災地復興の大きな助けになる。



こんな広い地下空間がこの杭工法でコンパクトに作り出せる



海の上でもコンパクトに杭列が作られている

また、鋼管杭の先端に刃のつい

たビットを取り付けた鋼管杭

も鉄鋼会社と共同で開発され、

それを使って、既存の硬いコン

クリートや岩盤を貫入してゆ

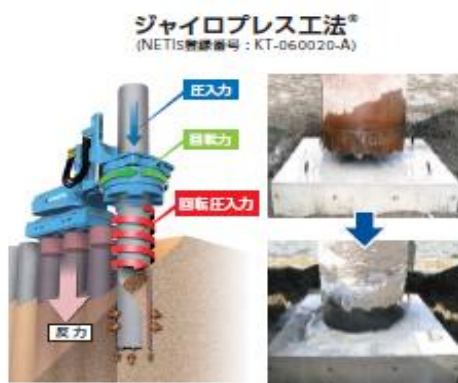
く工法(ジャイロプレス)も既

にできているという。

(本来この圧入工法など

鉄鋼会社がやらねばならぬ

鋼管杭・矢板の用途開発と思い



ながら見ていましたが、鉄鋼会社にいる時には 打ち込んだ矢板の上に打ち込み機を載せて移動させていくなど思いもよらず)

土木工事には欠かせない杭打ち作業 塀に囲まれた工事現場で大きな音と振動を響かせた荒っぽい作業。

それが今は 広い場所を囲むこともなく、コンパクトな場所で無騒音・無振動で次々と杭打ち作業がすすむ。

コンパクトで高速施工の連続杭打ち作業が可能となったことで、従来の基礎としての用途から、耐震・耐津波の特徴を

そのまま構造物として使う用途が広がるとともに、次々とそのメリットが引き出され、いまや土木建築の先端的工法・構造物の切り札となっているという。

今 遅々として進めぬ東日本被災地の復興工事の中で、地中深く打ち込まれた鋼管・鋼板矢板の連続杭の耐震性・耐津波性が鉄筋コンクリートの巨大構造よりも大きく優っていることが明らかになりつつあり、 場所・環境を選ばぬスピーディな工事工法と相まって、大堤防・護岸や道路・橋梁工事の切り札にもなっているという。

土木工事の荒々しい杭打ちが、今や土木建築工事の先端技術に。

また、その素材 鋼管杭・鋼矢板を提供する鉄鋼業の中でも 花形からは遠い位置にある分野での技術。

それも、この工法・装置・用途拡大に取り組み、先頭に立って普及を図ってきたのが、高知の地場産業。

TV や新聞でもてはやされる先端技術だけが、社会を変えてゆく先端技術でない。

前回 造船業の復活を紹介しましたが、 重厚長大 鉄鋼の中でも一番先端性の遠いと見られてきた鋼管杭・矢板の分野にもかかわらず、社会インフラの先端を担っている。

とんと厚鋼板の鉄の話が聞けなくなっていたのですが、嬉しくなって ご紹介。

なお 本稿ご紹介会社 高知市 技研製作所 <http://www.giken.com/ja/>

本稿の写真など 上記 Giken home page などインターネットから採取。整理してから使わせていただきました

【 From Kobe 2015 年 5 月 】新緑の五月

野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時
真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで

From Kobe2015

5.

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで
2. 最近流布される情報や政権のアナウスマントに違和感と疎外感
自分には一番納得できた 最近の新聞記事の紹介

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで



新緑の 5 月 野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時

新緑の山を訪ねるのも スポーツに興じるのもよし また 街歩きも楽し

緑の中に身を置いて 真っ青な空を胸いっぱいに 身も心もリフレッシュ 思わず歌を口ずさむ



天候不順が続いた 4 月も下旬になって 真っ青な空が広がり、一気に野も山も新緑に。街も華やかに。

気分も晴れ晴れ、何かせずにはおられない。 ぶつぶつ 言ってもおられない。

戸外で楽しむ絶好の季節の到来。 新緑の中に身を置いて リフレッシュ。 うれしい春を楽しんでいます。

気がかりは最近の世相についていけなくなったと感じること。

4 月には地方選挙があり、景気も良くなり、何か時代がかわると政権は盛んにアドバルーンを上げていますか……。

年寄の出る幕ではないが、平和憲法を守ることを国是としてきた日本。「憲法」というだけで、時代遅れなのではし

ょうか…。 歯止めのない武力行使 それが本当に平和への道??? 何か腑に落ちない。 原発も同じ。「理」のないも

のは「ダメなものはダメ」自分の経験の中で研ぎ澄まされた感覚は何よりも「理」。 そんな思いも頭をよぎる。

気が付けば 日本がまた「アジアの孤児」にならぬよう 年寄だからこそ 自分と世間の距離感をいつもはからね

ば……と。 最近の流れにつけぬ自分。 自分にフィットする新聞記事を見つけると同志もいるのだと>

最近うなづいた記事をいくつか この欄でご紹介。 皆様にはフィットするでしょうか??

From Kobe 2015.5.1. by Mutsu Nakanishi

自分には一番納得できた最近の新聞記事の紹介

この一年 ずっと気になってきた真贋の見えぬ署名意見記事や特集意見記事の急増。

東京中心とも見える巨大広告の中に記事が埋まる紙面構成方針にちょっとついて行けなくなって

長年見慣れた朝日新聞を地方紙に変えてみようと思う。「真贋が見えにくい」というべきなのかもしれぬ。

どう言い表したらよいのか そんな思いにいる中、4月17日朝日新聞に「強制連行」についてのインタビュー

記事が掲載され、今 自分の思っていることと一緒に・・・と。

多くの問題を今抱える朝日新聞。 この記事どう映るでしょうか・・・

でも 長年読んできた天声人語や記事の数々にみる朝日新聞の眼は 今も自分にもっとも身近で未練もあるのですが、今回 この朝日新聞の記事をみて、スカッと「朝日 頑張れ!!」と。

朝日新聞がこの掲載記事のごとく落ち着いた眼を取り戻せば、また戻ろう。今も朝日新聞 応援団である。

下記に載せたのが朝日新聞に「強制連行」についてのインタビュー記事。

この問題については 各分野の人から それぞれの意見が数多く出されており、「おいそれと 発言でけへんぞ」と思ってきましたが、技術屋の私には、一番分かり易く筋の通った発言に見える。

朝日新聞掲載インタビュー記事 「強制連行 史実から考える」 2015. 4. 17.

※ 最後のページに読みやすいように全文整理して転載しています

どう思われるでしょうか・・・

「 事実は無限にある。都合のいい事実だけをつなぎ合わせれば別の歴史も生まれる。

「 事実の断片と歴史の本筋をどうやって見分けるのか?? 何が一般的で 何が例外的なのか?
それは幅広い史料[事象]にあたり、マクロとミクロの両方から抑える必要がある。 」

この言葉はまさに科学者・技術者の視点と同じであり、かつて取り組んだ問題解決取組の視点と全く同じで、スッと受け入れられる。

かつて「だまし絵」を見て「事実といっても その視点 心の持ちようで、眺めている事実は多面性を持っている」とハッと気付いて「自分の眼を磨かねば、問題解決はできぬ」と物の見方が大きく変わったことがある。そんなことを思いながら、記事を読みました。

この「強制連行」問題や「朝日新聞」問題などばかりでなく、今この社会で起こっているさまざまな問題に対して、この「真贋の眼」で史実を自分なりに淘汰しないと「都合のいい事実だけのつなぎ合わせ」になってしまう。また、意に反した社会への誘導が進行してしまう。

自分の視点で 社会を今ほど大きく揺り動かせる時代はない。無関心はまた こんなはずでは…の悔いを残す。

誰もが好きに簡単に情報を集めて つなぎ合わせて情報発信できる情報化 IT 社会。玉石混合の情報が無数に漂っている。 やらせの情報が公然と垣間見える時代 どれほど多数のそんな情報が流れていることか・・・

自分にとって いやな情報でも眼をそむけては真贋の眼は磨けない。

また、まさに 別の歴史も独り歩きしていることを認識する必要がある。

この記事に記された歴史を見る眼 そして いたるところで都合のよい断片史実で作られた虚構の情報があふれている情報社会 ほんの数十年前にはなかった時代 今ほど真贋を見抜く自分の眼を磨かねば・・・。

日本人の一番不得意な力である。 それを意識して・・・と。

2. 朝日天声人語氏の疑問 パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか??

「医師は患者の生まれや育ち、生活の背景間で知る必要があり、 患者の数だけ治療法があるというのに

「パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか?? 」と天声人語氏はいう。

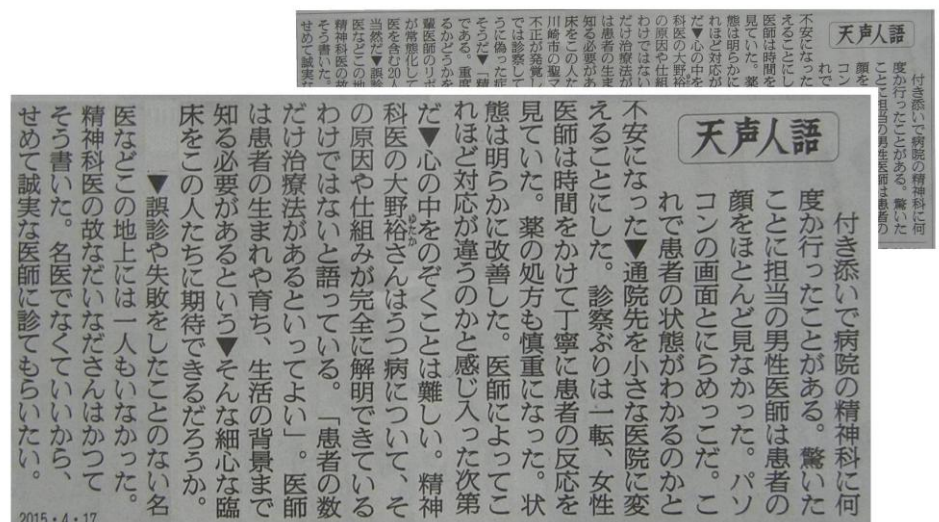
そういえば、パソコンに記されたマニュアルの薬を選ぶのに腐心する医者にびっくりしたことがあり、また それがスピーディーに治療してくれるいい評判の医者だという。「病気はマニュアルだけではなおせんぞ!!」と思いつつ、周囲を見渡すと そんな事例がいたる処で横行している。

想定外のことが起こっているのに「うまい手がある」とばかり、一事が万事 即物的

に想定と確率で、マニュアル通り推し進めることが最善判断だというのは、「想定外」の答を先に用意した言い逃れに映る。そんな風潮が日本に蔓延している。

忙しすぎる日本人 ちょっと立ち止まって考えてみよう。

さもなくば、よい知恵・判断もうかばず、どこかで 悔やみきれない「どか～ん!!」の道へ



朝日新聞 2015.4.17.「天声人語」より抜粋

3. 政権の牽制 外人記者の見方 日本の報道は萎縮していないか...

「政治が介入判断するのは当たり前」とみんな普通と思いこまされているが、国際社会では異常???です

朝日新聞掲載の記事。報道機関への政治の介入と報道機関側の報道萎縮の方向が今ますます露骨になっている。

今まで 間であったのが、堂々とそれが正義でもあるかのように慢心して.....

かつての共産主義・軍国主義の時代への逆もどりと国際社会は懸念する。でも一般人はそれが普通と思い込まされていることに気付いていない。「一般人側の想定外」ではすまぬことにならねば良いかと。

日本の報道 萎縮していないか

政権の牽制 外人記者の見方

東京・有楽町の日本外国特派員協会。16日昼、テレビ朝日の「報道ステーション」で、安倍政権の「圧力」に言及した元経済産業省官僚・古賀茂明氏の記者会見。数十人の外国人記者たちが集まった。古賀氏は、メディア側が政権とのあつれきを回避し、自ら表現の範囲を狭くする狭い範囲の報道を繰り返していることを指摘、「国民が本来の権利を行使することができなくなる恐れがある」と語った。

ドイツ紙の4代男性記者は「古賀氏と全く同感だ」と話した。ドイツではメディア幹部が政権幹部と飲食したり、ゴルフをしたりする光景は「考えられない」と話す。メディアには権力を批判的に論じる役割がある。役割を疑われる行為をする必要がない。一方、韓国主要紙の男性記者は今の日本の状況について「盧武鉉政権の頃を思い出す」という。2003年から5年間続いた盧政権は、日本で約3年勤める男性特派員らについて新聞社に「悪言がき」と指摘することも多かったという。省庁の取材拒否や、記者クラブの統廃合もあり、記者たちは省庁の趣向に置いた台で記事を書いて抵抗した。政策のチェックや、問題点を提起するのがメディアの役割。それを制限しようとする側も、萎縮してしまう側も、結局損するのは市民である市民だと知るべきだと話す。

英紙ガーディアン紙の東京特派員ジャスティン・マッカーリ（45）は、自民党が昨年の衆院選報道でテレビ局に「公平中立」を求める文書を送ったことが気かかったという。これを報じる、報じないと言わなくても、脅す持ちをほのめかしている。ガーディアン紙は13年、米英情報機関による情報収集の実態をスクープし、政府から内部文書のデータ破壊を強要された。マッカーリ記者は「民主主義国家でも、権力が報道に圧力をかける事態は起きている。重要なのはメディアがどう対応するか、だと強調。日本の報道機関が圧力を受けているように見えることを懸念している」と語った。

17日には、自民党がテレビ朝日とNHKの幹部を呼び、番組内容について事情を聴く。

市民の聴取方針 市民団体が抗議

自民党の情報通信戦略調査会（会長・川島二郎衆院議員）がテレビ朝日とNHKの経営幹部を呼び、それぞれの報道番組の内容に関する「聴取方針」を説明する。市民団体が抗議。

Media Times

メディアタイムズ

権力批判が役割 ■ 圧力受け入れてる

2015.4.17.朝日新聞朝刊より

4. アベノミックス等による数字に見る地域格差の増大 政権の言うトリクルダウンは瓦解 インターネット デジタル 毎日新聞 2015.4.17.より by Mutsu Nakanishi

平均所得:自治体3割が所得減 多くが「消滅可能性都市」

毎日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時30分)

総務省の統計に基づいて毎日新聞が算定した全国自治体の住民平均所得を見ると、アベノミクスで好況と言われる中、全1741市区町村の3割にあたる513自治体で、2013年の所得が前年より減少していた。このうち65%超の337自治体は、民間有識者会議の唱える「消滅可能性都市」と重なる。

関連記事

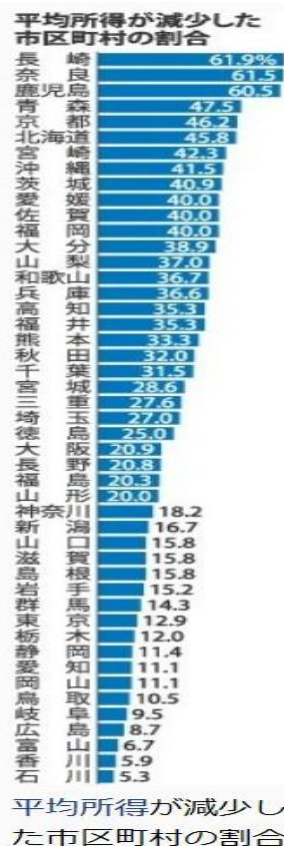
- 【数値で裏付け】アベノミクスで所得格差拡大
- 地域間格差の拡大 主因の一つに株式譲渡所得
- 【平均所得最低はどの市区町村?】人口減、地域再生遠く
- 【平均所得1508位】高知県北川村「知恵貸して」
- 【消滅可能性都市、活性度低い議会】
- 「アベノミクス」恩恵実感できず 内閣府調査

513自治体の平均額は287万1000円で、全国平均の327万4000円を上回ったのは、わずか20自治体だった。

全国平均に届かない下位自治体の多くで平均所得が減っており、富裕層の多い大都市部がより豊かになる一方、平均所得の低い自治体がより貧しくなっている。

都道府県ごとに所得減少自治体の割合を調べると、長崎61.9%（21自治体のうち13）▽奈良61.5%（39自治体のうち24）▽鹿児島60.5%（43自治体のうち26）---の順に高かった。

513自治体は人口減少や少子高齢化が進む農村部がほとんどだが、県庁所在地の佐賀市や政令市の福岡市など都市部も交じる。東京都も全62自治体のうち8自治体で平均所得が下がったが、いずれも農村部や島しょ部の市町村だった。【和田浩幸】



平均所得:地域間格差くつきり 安倍政権下で拡大

毎日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時23分)

平均所得とジニ係数の推移



平均所得とジニ係数の推移

2013年の平均所得額

(単位・千円)

ベスト10		ワースト10	
① 東京都港区	12667	① 熊本県球磨村	1939
② 東京都千代田区	8988	② 熊本県山江村	1990
③ 東京都渋谷区	7566	③ 北海道上砂川町	2000
④ 兵庫県芦屋市	6317	④ 秋田県東成瀬村	2012
⑤ 北海道猿払村	6265	⑤ 岩手県九戸村	2029
⑥ 東京都目黒区	6159	⑥ 沖縄県大宜味村	2046
⑦ 東京都中央区	5931	⑦ 高知県大豊町	2062
⑧ 東京都文京区	5808	⑧ 沖縄県国頭村	2066
⑨ 東京都世田谷区	5364	⑨ 秋田県藤里町	2074
⑩ 長野県軽井沢町	5138	⑩ 沖縄県今帰仁村	2084

2枚目/2枚中

2013年の平均所得額 (単位・千円)

強制連行 史実から考える



66年生まれ。早稲田大学社会科学研究所助手をへて07年から東京大学大学院総合文化研究科専攻、今春から教授。著書に「朝鮮人強制連行」。

腰引ける自治体
歴史の真贋を
見抜く力が必要

戦時中、日本に動員された朝鮮人犠牲者の追悼碑を、撤去するよう求めた動きが最近、各地に広がっている。「強制制」という文字をテコで隠したり、副教長から説明を削除したりした自治体も現れた。史実に揺らぎが生じているのか。朝鮮人強制連行の歴史を追いかけて20年以上になる外村大・東京大学教授に聞いた。

強制連行の歴史に長く関わってきたのは、なぜですか。

「どうも韓国の味方ですよとか、どうも『反日』らしいとか、色眼鏡で見られがちですが、私は、日本近現代史の、実証を重んじる研究者です。戦前の日本帝国の事象は、裏側からのはうがうえを見える。今後、日本がどんな社会をつくっていくかを考えるうえでも大切な歴史です。韓国・朝鮮人のため、というより日本人自身のため、未来のために記憶し、伝えにくべきだと思っているのです」

―強制連行は「なかった」と主張する人がいます。

「とんでもない。朝鮮半島で、日本内地への暴力的な労働動員が広く存在していたことは、史料や証言からも否定しようがありません。政府は1939年から毎年、日本人も含めた労働動員計画を立て、閣議決定をした。朝鮮からの動員数も決め、日本の行政機構がその役割を担った。手法は年代により『募集』『官あつせん』『徴用』と変わりましたが、すべての時期でおおむね暴力を伴う動員が見られ、約70万人の朝鮮人が主に内地に送り出されました」

「こんな当たり前の史実が近くろ、なぜか曲解される。誤解や間違にも目立つ。歴史家の常識と、世間の一部の感覚とが、ずれてきたのに感じてますわ」

―なぜ「こんな」かな。

「特に90年代半ばからですね、史料の発掘が進み、いろんな話が出てきました。朝鮮人の待遇が日本人よりよかったとか、自ら望んで来た人がいたとか。いずれも事実の断片ではあります。じゃあ暴力的な連行や虐待は例外的だったかという、それは違う」

「事実」というのは無限にあるものですね。都合のいい事実だけをのぞきあわせれば別の歴史も生まれる。でも、それは「どうあつてほしい」というゆがんだ願望や妄想に近い。慰安婦問題で国が直接、連行を命じた文書が出ていないのに、これに乗じ、強制連行までも「なかった」「なかった方がいい」といふ」

――事実の断片と歴史の本筋。どうすれば見分けれますか。

「何が一般的で、何が例外的な出来事だったかを見分けるには、幅広い史料にあたり、ミクロとマクロの両方から押さえる必要があります。日本の統治機関である朝鮮総督府の調べでは、太平洋戦争開戦前年の40年に朝鮮農村で「雇傭」を希望していた男性は24万人に達していた。朝鮮内部の動員や満州への移民もありましたから、その年だけでも底をつく人数です。翌年に入集めが大変になったのは疑いようがない」

「実際、内務省が調査のために40年に朝鮮に派遣した職員は、動員の実情について「拉致同様な状況の悪態」と文書で報告しています。厚生省から出張した職員も45年1月、村の労務係の言葉として、住民から「袋だたきにされたり刃物や突きつけられたり命がけ」だと報告している。それほど抵抗が広がっていたのに、日本帝国は無理に無理を重ね、逆に動員数を増やしていったのです」

「そこでまずして動員したのは、なぜですか。

「政府が目指していたのは、あくまでも戦争勝利でした。そのためにも戦力増強が、石炭や食料を増産しようとした。朝鮮人の多くが投入されたのも炭鉱です」

「炭鉱は重要産業なのに人手不足で困っていた。待遇が悪く、監獄部屋に象徴されるように労務管理も劣悪だったからです。本来なら機械化と意識改革を進めるべきでした。しかし業界は朝鮮農村の困窮や無知につけ込み、安い労働者を確保しようとした」

「また、朝鮮に行政機構を整っていたいせんでした。識字率が低くラジオはおろか電氣すら通っていない村々で、日本内地に渡る労働者を集めるのは非常に困難な作業だった。とにかく若い男を呼び出し、最後はトラックに押し込むような事態になったのです」

——「募集」段階では強制とは
言えないという人もいます。
「初期の段階から当局は深く関
わっていました。たとえば会社の
募集係に同行し、日本人の警官が
家の前に立つ。役人から呼び出し
がかかる。それだけで多くの朝鮮
人が恐れをなし、おとなしく応じ
たのです。断つて大変な目に遭っ
た、というような話が出回ってい
ましたから、それが植民地とい
うものです。その後、戦局が悪化す
るにつれ、暴力性は誰の目にも明
らかにようになりました」
——最後は徴用でしたと。
「そこが誤解されがちですが、
『徴用』は国民徴用令に基づき、
国が責任をもって配置するもので
国の荣誉を担う労働者だったんで
す。甲斐金や別府半田と援護す
つていました。だから日本人は戦後
初期から徴用されました。と
朝鮮人にこの制度が適用されて
たのは戦争末期の4年です。徴用
令を適用しないまま、多々を動
したのが特徴でした」
——なぜでしょう。
「日本人と違って、ちゃんと
た権利を持つ主体ではなく、法
に基づく行政命令がなても動か
さず、と見なされたからでしょう
。安くても、激しい職場でも、
こへ言わすに働いてくれるのだ
と。差別意識があったのです」
——最近の外国人労働者問題
議論に似ていますね。
「そうなんです。人手不足が
刻みな分野で、賃金アップや労働
環境の改善によって日本人を定着
せるのではなく、低賃金でも働
てくれそう外国人を期間を限
て連れてくる、という発想は同
です。省庁をまたいで人員確保
関わる部局が多数あり、利害や思
惑の違いを抱えていて、きちんと
した方針を打ち出せなかった点
似ている。結果として、なし崩
的に動員が広がっていきまし

――裏側から、日本帝国のどんな姿が見えてきたのか。

「戦争に勝ったための国家運営や構想、政策とはほど遠かった現実です。総力戦では、まさにその国の案の姿が現れます。英国のようには労働運動が盛んな国では、労働者の意見を取り入れたほうが生産性も上がるかと考えた。日本では民主主義も労働運動も弱かったのでは「どこか働け」となった」

「朝鮮に長く住んだ役人の中には、創氏改名に反対した人もいたんですよ。ところが、そういう声は止まらなかつた。現地事情に強い役が無理な計画を立てた。動員数を達成するため老人や病人まで送り出し、すぐに送り返すようなことを繰り返していたのです」

「民主主義を欠いた社会が、十分な準備態勢もないまま無謀な目標に突き進めば、結局はその社会でもっと弱い人々が犠牲になる。社会全体も人間らしさを失って行く。そういう歴史として記憶すべきだと思っています」

――戦後70年です。首相談話が議論になっています。

「朝鮮半島で起きた歴史を踏まれば、村山談話にも小泉談話にもあった『植民地支配』への『おわび』は盛り込んで当然の前です。ただ、特定の言葉が入るかどうかだけが注目されることには違和感もある。村山談話には『若い世代に語り伝えていく』とありましたが、これは歴代政府はその後、何をしたのか。もっと具体的な行動を積み重ね、信頼関係を築くことが大切なのです」

「日本には朝鮮をルーツに持つ人も、中国をルーツに持つ人もいます。戦後は一緒に手を携えて、民主的で平和な日本を築いてきました……ということが言えるようになればいいのです」

——歴史を見る目も、外交関係に引きずられがちですね。

「その時期を生きた私たちの祖先を尊重したい」という思は私は決して同じです。ただ、足尾銅毒事件も、日本人の責任を問う作品をいかにのも残しています。植民地支配への何の矛盾も感じずに職務を遂行しただけを、私たちが継承すべき日本人の姿だ、歴史と言ふのは、とても不自然です」

「作中ののは、学校教育の現場で、強制連行の問題は厄介つからから触れずにおこう、という露骨な授業は教わらず、書店に行けばに現れている。生徒にしてみれば広がるとです。その気配は嫌味本が山積みなんです。な歴史があつたということを自治体トップがきちんと認め、発信する。歴史の真像を見抜く力が、いま私たちに求められています」

(聞き手・秋田)

梅雨前というのに 真夏のような暑さ 無理せず 元気に

1. 橋本大阪市長大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役
2. 神戸 好奇心いっぱい さわやかな時節を楽しむ
3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました



6 月になりましたが、梅雨時前というよりも 真夏のような暑さ。無理せず お互いに 元気にと
田植えの終わった水が張られた田に新緑の山が映え、美しい季節になりました。いかがでしょうか
6 月の始まりというと毎年アジサイの花の写真をを送りするのですが、今年はクリソウを。



初夏の風を吹き込む 可愛い花 クリソウ

梅雨前のひととき 緑に包まれた湿地で 一株一株が真っ直ぐに自立し、

輪になって 幸福を積み重ね 派手さはないが 見る人をほっと一息 和ませる

真っ直ぐ伸びた茎の頂点近く数段に渡り、王冠リング状にピンクの花を咲かせることから、
花言葉は「幸福を重ねる」。耳を澄ませば、立ち並ぶ花たちが声をそろえて「みんなで 今を真っ直ぐに」と
最近 仲間からのメールや声に元気づけられることが多い。

「神戸のジャズ ストリートの生ライブに飛び入り参加 カントリー ロードを気分よく歌い
みんなで盛り上がったよ。それが You Tube の動画で流れてる。是非 見てくれよ」
「おいおい プロにまじって なにすんねん。ようやるわ」と。

でも カンカン帽かぶって タンバリンもって 気持ちよく歌う姿に こっちも負けてられるか…と。

また、闘病中の仲間 訪ねるのもどうか…と控えている時に「お～い どうしてる」の声
元気な声にほっとする一方 うれしくなる。

「こっちも 久しぶりに 奥播磨千種のたたら見に 原チャリ飛ばしたよ」と。

新聞に掲載されたアスベスト被害者の会活動の写真の奥に仲間の顔が小さく写っている。頑張ってるなあ。

6 月には毎年高校時代の仲間が集まる会 落語の会 高校野球の予選 母校の戦い 闘病の仲間も気になる。

話題は決まって また、かつての時代の話に夢中になり、あとは仲間の闘病をきづかい 介護の事等々

何とはなしに待ち遠しかった 6 月 闘病中の仲間も 無理せず 今を笑顔で

1. 橋本大阪市長の大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役

5月17日の住民投票の結果、大阪市を廃止し、五つの特別区を新設する「大阪都構想」の協定書（制度案）は住民投票の結果、反対が賛成を約1万票ほど上回り 僅差ながら否決され、政令指定都市・大阪の存続が決まった。賛否を決したのは70歳代の投票行動と反対票。投票に行った年寄の多さが賛否を決したといえる。20～60代のほとんどが賛成優勢または拮抗だったというが、70歳以上は反対票が大きく上回ったという。

若い人たちの多いインターネットの書き込みなどの論調を見ると圧倒的に橋本支持

「二重行政 無駄を排する」橋本改革・都構想になんで反対するねん」とする反応が圧倒的である。

でも みんな即物的 同じことしか言えんのか・・・と言うほど その次の中味がない。

どう見ても 聞きかじり ノー天気と年寄には「ほんまに 任しといてええのやろか・・・」と映る。

一方 年寄たちは見ていた。論理とは別に橋本氏の改革行動を・・・

「自分流以外には聞く耳を持たぬ問答無世用の強引・性急な判断とやり方

常に二者択一の勝者の論理 そして 垣間見える身内への甘さ。」

賛成・反対は別にして、年寄は 選択を迫る二者択一の怖さ そして 明日は我が身の経験を知っている。

都構想・二重行政解消の改革が負けたというより、橋下市長の行動判断の強引さと安心できる改革への

不安感が年寄に渦巻いた結果だとみる。「賛否ではない。このまま突き進むと危ない」と。

それは 70歳以上 年寄の経験・皮膚感覚だろう。年寄誰しもが持つ自分の感が働いた。

年寄パワー炸裂 年寄が数多く投票に出かけ、即物的なスピード行政に待ったをかけた。

70歳代 まだまだ現役 カもある。大阪の年寄に元気を貰った。

くすぶってばかりは いられないと。

これからの大阪 どんな改革が始まるのか？ そっちの行動と手腕の主役は文字通り若者たちだ。

大阪の年寄たちに 年寄の生き方 こんな社会参画もできるのだと・・・。

大阪都構想の住民投票の結果を聞いて 2015.5.17. 夜

2. 神戸 好奇心いっぱい爽快な時節を楽しむ

● 神戸の春のカーニバル神戸祭 ジャズ ストリート ライブを楽しむ 2015.5.17.



● **田園一杯に広がるレンゲ畑** 西播磨佐用町三河のレンゲ畑 2015. 5. 20.

めっきり見られなくなったレンゲ畑を西播磨佐用町三河の田園で見つけました

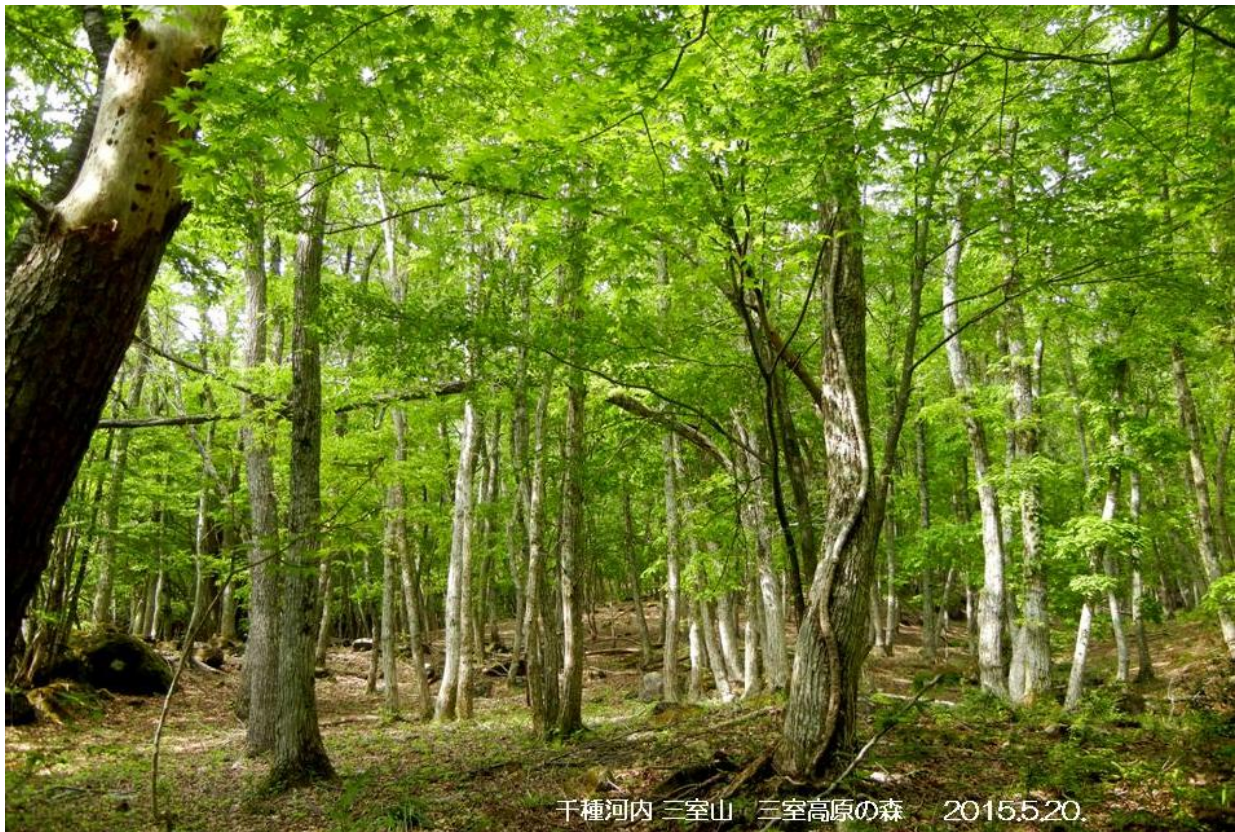


最近は見られなくなったレンゲ畑を佐用と千種の間 三河の郷で見つけました
2015.5.20.

● **こんな明るい新緑の森の中で 一息** 奥播磨 千種町三室高原で 2015. 5. 20.

こんなに明るい緑の林 風がのんびりわたってゆく

傍らに座って ちょっと一服 川のせせらぎ 鳥の声に耳を澄ます



千種河内 三室山 三室高原の森 2015.5.20.

3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました

最近の風潮として、政治家も企業家もトップとしての責任を回避する風潮が目立つ。
何かスピード・グローバルIT化が旗印になって 特に目立っている。
なぜだろうか・・・とと思っていましたが、新聞に掲載された刑法に組織罰を法制化すべきとの記事
に書かれていた企業罰の解説記事を読んで、「こんなことだったんだ」とはっと気付きました。

日本の刑法では組織の刑事責任を問うことはできず、組織事故でも個人の責任を問うしかないという。
福知山線脱線事故について JR 西日本の組織としての「リーダー責任を問う裁判の判決では
「組織として求められる安全対策という点から見れば、JR 西日本の当時の ATS の
設置のあり方などは期待される水準に及ばず、問題があったと言わざるを得ない」
と指摘しながらも、組織の責任者としての社長の責任は問えない」とした。

あれだけの大事故を起こし、数々の組織ぐるみとしての問題がグリヤーになっているにもかかわらず
組織の長としての責任は問えず、また個人としての責任についても立証できずに無罪の判決。
なんと納得がゆかぬ結果であるが、日本の刑法では組織の長の責任は問えない仕組みなんだと
言われると仕方ないのか・・・と。そして はたと思い当たる節がある。

これを逆手に取っての事なのか？

勉強しない社長が「想定外」「予知できなかった」を繰り返す最近の企業家の言動に
「組織罰に問われないことを承知し、企業トップの無責任さを益々増長させているのではないかと」
同じ構図は 政治の世界ではもっと常識化していて、行動ではなく文言で済まされてしまうことが多い。

企業・組織の長たるもの もっと厳しいレベルの高い意識をもって 組織の責任を果たしてもらわねばと思い
つつ、その根底に、日本では「企業責任」そのものを問う仕組みがないことを初めて知りました。
だから いくら社長の責任だといっても馬耳東風 相手には勝負が見えているのだと。

欧米では厳しい企業罰の規定があると聞く。 長い歴史がある刑法であるが、組織罰の規定は必要かとも。
でも、新聞の解説では、私の言う「知らない 予想外」などとの言い逃れは刑事罰以前の組織の長の資質
の問題だという。 それを許す社会に目をむけねば・・・と。

東電問題 原発問題 関電の料金値上げ はたまた 集団自衛権問題に 憲法問題等々
なかなか筋の通った話が聞けない日本。

こんなところにも 組織リーダーの責任や資質に疑問符が付く。

もう 親方日の丸 頂点同調ではやってゆけぬ日本になってしまっている。

「知らない 予想外だった」との一言で切り抜けてしまう姿に何度となく割り切れなさを感じるのですが、
どうでしょうか.....

2015. 5. 31. 企業罰の解説記事を読んでいて
by Mutsu Nakanishi

何とはなしに待ち遠しかった 6 月

梅雨前というのに 真夏のような暑さですが 無理せず 今を笑顔で

2015.6.1. from Kobe by Mutsu Nakanishi

From Kobe 2015. 7月

1. 7月2日 は 歳時記の「半夏生・はんげしょう」 梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに
2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

1. 7月2日 は 歳時記の「半夏生・はんげしょう」

梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに

明石では 半夏生にはタコを食べようと盛んにPR

また、郷の山裾で この頃花をつけ、花の近くの葉 数枚が葉の表を白くする不思議な草花「半夏生・半化粧」

「半夏生」の言葉の由来 歳時記の言葉と花 どちらが先なのでしょう
「半夏生」 歳時記では 毎年 夏至から数えて11日目頃を言う。

梅雨の末期で、多湿で不順な頃とされ、農家ではこの日までに田植えを済ませるといふ。地域によるが、この日にタコを食べる習慣があり、元々は田に植えた苗が、タコの足のようになりしっかりと根付くようにとの願いを込めたもの。タコの産地 明石では最近この風習を広めようと土用丑のウナギに倣って 半夏生にはタコを食べようとPRしている。

また、この頃 葉の表の一部が白く化粧する「半夏生・ハンゲショウ」と言う野草もある。

山口県美祢に居る時に教えてもらった梅雨明けまじかに咲く草花で、そのとき 花の近くの2,3枚の葉だけが白くなり、なんとも不思議な草花と。山裾のの道を歩いていると時折見かけることがあり、この時期をすぎると全体が緑の葉に戻る。また、梅雨末期には大雨にみまわれることがあり、「半夏生雨」の言葉もあると聞く。

歳時記に記された「半夏生」・そして半夏生の花は田植えを終える目安 気候の変わり目として、農作業の大切な日であり、また 我々にとっても 突然の大雨への注意をせねばと。 そんな 梅雨明け待ちのこの頃。梅雨明けが待ち遠しい。



2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す
是川縄文遺跡 や 国宝合掌土偶 の出土地 青森八戸



映画「ライアの祈り」—それは、人生に臆病になっていたひとりの女性が、“人間本来の生き方”のエッセンスに満ちた縄文時代に触れて自身の幸せのカタチを見出し、八戸の街を舞台に一步踏み出していく姿を描く、優しさ溢れる感動作。

桃子は八戸の眼鏡店に勤務する明るく姉御肌のアラフォー女性。だが彼女の心の奥にはどうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんな彼女は、ある時、縄文時代の遺跡発掘に情熱を傾ける男性、クマゴロウと出会う。

それをきっかけに、遥かな昔、この場所で生きた命があったことに想いを馳せた彼女は悠久の時を経て自身へと繋がる絆

を体感するのだった。果たして、桃子が見つけ出す幸せのカタチとは？

八戸市 「ライアの祈り」のページより <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/27,82184,91,278,html>

縄文の時代は一万数千年　こんなに長く続いた時代は世界的にもほかになし。次に長いのは江戸時代の600年

この平和の原動力は何か・・・　人として今一番大事なことは何か・・・

その象徴として描かれる　八戸風張遺跡の国宝合掌土偶　ライアの祈り

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す八戸市民が世界へ縄文遺跡の素晴らしさを発信する映画。
主人公二人が訪ねる八戸の市街地や是川縄文遺跡・御所野縄文遺跡（岩手県二戸）そして　縄文遺跡の発掘作業の素晴らしい
映像と共に　二人の恋愛・心の交流を通じて、「平和　そして人として一番大事なもの」が描かれる。

言葉としては表現なされてはいませんが、和鉄の道で何度か取り上げてきた下記が発信され続けられた。

人間が幾たびとなく生き延びてきた原動力　「ヒューマン」「心優しき縄文」

東日本大震災を経験した八戸が素晴らしい北東北・八戸の風景や縄文の映像

そして、主人公を通じて語る縄文の平和への思い。それらがひしひしと伝わってくる。

かつて、岩手県民が作った映画　東北蝦夷の雄「アテルイ」に続く青森八戸市民の縄文への思いが映画につづられている。

主人公に何度も語らせる縄文の解説が多少説教ばくで耳につきましたが、それが主題だから仕方がないのかも・・・

全く悪人が登場しない心地良い映画でもある。

なお、この映画のタイトル「ライアの祈り」の「ライア」とは古いギリシャの竖琴で、縄文の豊かな生活の場であった森の中
を竖琴の輪郭のようにうねって水が流れ下る水場・木の実のさらし場をイメージしているという。

（映画の原作「ライアの祈り」の中では　小説の進行と同時並行で描かれる夢の中の縄文の少女の名前となっている）

何度か和鉄の道でも紹介した日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の映画。

今憲法・集団自衛権問題など「平和をどう考え、実践すべきか」が一人一人に問われている今、

「持続的な平和な社会の原動力は何か　人として今一番大事なことは何か　」を考える一助になれば・・・と。

また、一足先に明治の産業遺産として製鉄関連の遺跡群が世界遺産に登録されるようですが、

ぜひともこの北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を願っています。

次ページに本映画のストーリーを映画の公式ページから転記させていただきました。

機会があれば、ぜひ映画を。また原作の小説「ライアの祈り」も・・・

2015. 6. 23.　映画　ライアの祈りを観賞して

by Mutsu Nakanishi



《「関連の和鉄の道・縄文」 by Mutsu Nakanishi》

1. 【鉄の雑記帳】 日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の知恵

「利他的精神」について　朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・　2014.6.1.

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron05.pdf>

2. 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」視聴・購読メモ

<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1204human.pdf>

3. 青森・八戸　縄文の郷「是川」　縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる　2008.10.30.

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron13.pdf>

4. ストーンサークルを囲む土屋根の竪穴式住居群　御所野縄文遺跡探訪　2008.10.30.

縄文の森に600を越える土屋根の竪穴式住居群　縄文の村がそっくりそのまま残っていた

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>

5. 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜を　普代から久慈・八戸へ　砂鉄浜の　有家海岸　&　種差海岸

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron11.pdf>

◎ 和鉄の道 Iron Road「縄文」掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>

映画「ライアの祈り」 ストーリー

Story 永久のロマンを旅して見つけたものは、《幸せ》でした。

桃子(鈴木杏樹)は、明るく姉御肌のアラフォー女性。メガネ販売店の八戸店で店長を務めている。それまで住んでいた実家のある弘前から転勤を機に八戸に越してきたばかりだが、既に店の後輩の桜達から頼られ慕われる存在となっていた。だが彼女の心の奥には、どうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんなある日、桃子は、若い桜(武田梨奈)に誘い出され、しぶしぶ街コン風地酒パーティに参加する。「人数合わせ要員でバツイチ」とおどけて名乗った桃子の前に遅れて現れたのは、40代後半の無精髭の男、佐久間五朗(宇梶剛士)。あだ名はクマゴロウ。桃子は、彼を見た瞬間、遠い記憶が一瞬蘇ったような感じに襲われ、驚き戸惑う。彼女が感じたのは、子供の頃から時々見ていた不思議な夢の中の、太古の森を通る風の感触だったのだ。

クマゴロウは、遺跡発掘一筋の考古学研究者だった。一万年以上の間、平和に続いたという縄文時代に対する彼の畏敬の念は深く、語り出したら止まらない。その夜、いつになく飲み過ぎて、無骨で不器用なクマゴロウにからんでしまった桃子は、翌日、じわじわと記憶が戻ると、自身の失態に頭を抱えた。だがクマゴロウは、酔った桃子の支離滅裂な言葉——「八戸が弘前よりいいとこだって言うなら、私を納得させてよ！」——を律儀に受け止め、数日後、本当に八戸の街を案内してくれるのだった。

陸奥湊駅前朝市や蕪島神社など八戸の様々な場所を巡る二人。地元の人達に愛されているクマゴロウは、どこに行っても声を掛けられている。だが彼が縄文時代の話をはじめたとたん、桃子の脳裏にまたもや深い森のイメージが浮かぶのだった。不思議そうなクマゴロウに、桃子は子供の頃から見ている太古の森の夢のことや、クマゴロウと出会った瞬間に感じた風の感触を語る。すると彼は、縄文時代の夢ではないかと羨ましがり、自身の職場である是川縄文館に桃子を連れて行ってくれた。クマゴロウが桃子に見せたのは、八戸から出土した国宝の合掌土偶だった。

「縄文時代の人達って、生きるために必要なもの全部を持っていたんじゃないかしら」
何気なくそう言った桃子に、まさにその通りとばかり、クマゴロウは嬉しい驚きを見せた。そして縄文時代の代弁者として、何か表現してみることを勧めるのだった。

数日後、クマゴロウに教えてもらいながら、是川遺跡で発掘作業を体験した桃子は、土器の欠片を発見し、同じこの場所で生きた人々の命を感じ、さらには、その土地と繋がった不思議な感覚に捕らわれるのだった。

桃子は、夢の風景をイラストに描き始めた。縄文時代の衣装をまとい、弓を手にした少女の姿や風が抜ける深い森……。何枚か描き上がったものをクマゴロウに見せると、彼は、感動で涙ぐむ。彼がつけてくれた少女の名は、ライア——古代ギリシャの竖琴。

だが“縄文時代”が繋いだ心豊かな時間をクマゴロウと共有ながらも、桃子は、本気で恋することに臆病なままだった。何かと桃子を慕ってくる桜にだけは、誰にも言えなかった離婚の原因と心の痛みを打ち明けていた。それは、クマゴロウとの未来に踏み出すことをためらわせている原因でもあった。

そんなある日、クマゴロウは、縄文晩期の日本と交流があった可能性のあるベトナムへと調査に飛ぶ。手首には、桃子が編んで「お守り」としてつけてくれたミサンガをつけて。ベトナムの島に赴いたクマゴロウは、皆が共に笑って暮らせることが願いだという部族長の姿に、縄文時代のシンプルで心豊かな生き方に通じるものを感じ、感動する。彼は、部族長に問う。「人間として一番大切なことは何ですか」

だがその答えは、皮肉にも桃子の心の傷を思い出させるものになってしまう……。

果たして桃子は、クマゴロウとともに、太古からの風の中に幸せを見つけ出し、前へと踏み出すことができるのだろうか。

【 From Kobe 8月 】

【1】 ひまわりの夏 2015

【2】 戦争に道を開く安全保障法案が 国民的課題に 国の大きな転換点
今 声を上げねば !! 平和を今 自分の頭で考えよう

From Kobe2015

8.



ひまわりの夏 2015

真っ青な空にモクモクと入道雲

頭や肌を刺す酷暑にも一斉に太陽を見つめる 黄色い元気な顔・顔・顔

ひまわりの夏 到来 お変わりありませんか…

今年も西播磨佐用のひまわり畑 元気なひまわりに出会ってきました
自宅の庭でも ひまわりに朝顔も咲きだして、
早朝の空気を吸い込みながら、朝顔の数を数えるのもこの時期の楽しみ
まだまだ 元気 好奇心もある 前向いて 元気出してと…

また、毎年8月は 終戦・原爆・原発 そして 墓参

それぞれが生き様の記憶を次々と呼び起こし、戦争と平和 暮らしと家族

そして仲間にも思いをはせる

この夏 特に気になる平和の危機 違憲 戦争に道を開く安全保障関連法案を廃案に
憲法九条を守ろう 社会の流れが大きく変わる節目を迎えています。

年寄と言えども参画せねばと…

仲間の元気を活力に 母校の高校野球の声援にも毎年変わらぬ夏の楽しみ
孫たちにに振り回されることも多いのですが、それもうれしい ひまわりの夏
お互い無理せず元気に この夏を乗り切りましょう

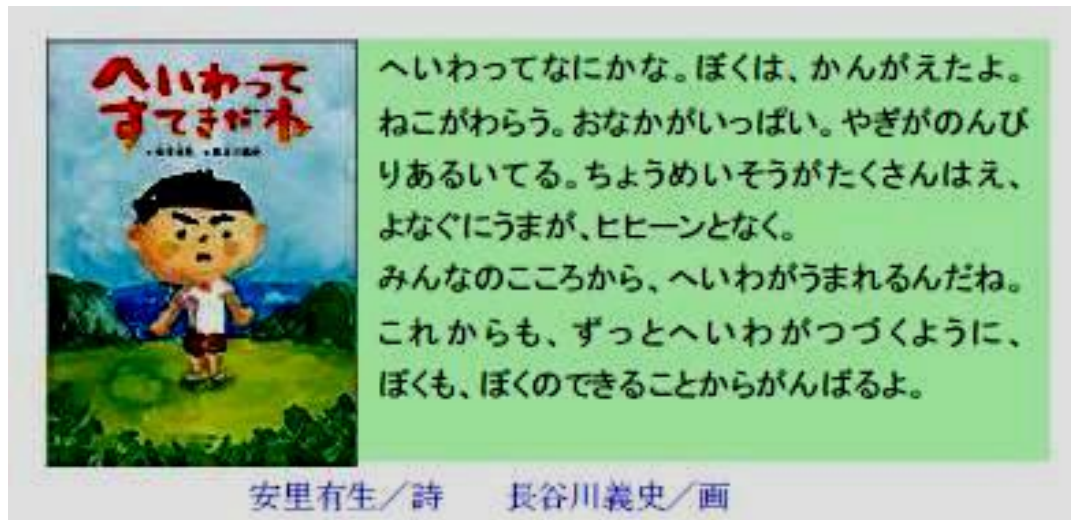
2015.8.1. 神戸より Mutsu Nakanishi



From Kobe 8月【2】 自分の頭で考えよう 「平和のために 守ろう 憲法9条」

戦争に道を開く安全保障法案が 国民的課題に
政治家の言葉ほど危ういものはなし

国の大きな転換点 今 声を上げねば !!
自分の身は自分で守る 自分の頭で考えよう



抑止力なくして日本は守れないとお題目のようによく言われるが、本当でしょうか……

だって 戦後 70 年 憲法九条を国是とし、平和憲法の下で 繁栄を勝ち取ってきた事実がある
よわよわしくみえるが、事実はこの。これほど強い力はない

惑わされず 自分の頭で考えよう

自ら平和を考える力 京大有志が発した平和宣言が話題になっている 耳を傾けていただきたく

みんなの力で 戦争を止めよう！ 京大発 平和宣言

戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

精神は、操作の対象物ではない。
生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。

学問は、戦争の武器ではない。
学問は、商売の道具ではない。
学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、
私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

自由と平和のための京大有志の会

【From Kobe 2015年9月】 《9月 夏から秋へ》

From Kobe2015

9.

なんとなく 無気力になっていた夏も もう終わりがんばらねばと……

1. もう 待ったなし !! 要ロードマップ そんな時代が迫っている

地球温暖化防止から改善へ 炭酸ガスの固定化技術展開



まもなく刈入れを迎える実りの秋 西神戸で

9月になって 秋晴れの青空を仰ぎ見たいのですが、未だになし。一日の中をとっても急激な気候変化が続き、TVでは 各地でピンポイントの豪雨や竜巻の襲来 そして 台風等々。でも 日差しは過酷で直射を受けると頭がくらくら。昨年より今年の方が厳しいのかなあ…と。 野菜などの価格も急上昇である。

やっぱり 地球温暖化の影響が牙をむき出し、我が身に影響がではじめたのでしょうか……

地球温暖化防止を 他人事にしていたら えらいことになるなあと……。

1. もう 待ったなし !! 要ロードマップ そんな時代が迫っている

地球温暖化防止から改善へ 炭酸ガスの固定化技術展開

地球温暖化・環境権を政争やビジネスのネタにしているような流れにしていって ほんとうによいのだろうか……

日本では 原発問題から、火力発電所が次々と建設され、環境にやさしい火力発電所の技術力をPRする一方

原発との選択を天秤にかける。 何かおかしい。

地球温暖化の対策としては 地球規模での炭酸ガスの増加を食い止め、総量を削減する道を毎年加速する道をきりひらかねばならぬのに……。

何としても 炭酸ガス総量を減少させる炭酸ガス固定化の大規模技術開発なくしては もうこの環境変化は食い止められないだろう。 極端なことを言えば ここ10年で 世界一斉にガソリン自動車が電気自動主もしくはほかの手段に切り替える自動車革命や地球環境にある炭酸ガスの固定化の技術革命がどうしても必要になる。

「こんな技術もある こんな事もできる」ではなくて、待ったなしで 具体的なロードマップに乗せた技術展開が必要な時に来ているのではないかと……。

そんなことを 最近の過酷な気象変化は示している。 まあ こんな気象変化は日本だけ???と言う人もいるが、形は変違うが、地球規模いたるところで こんな変化が起こっている。

北極海では海水面が急激に広がりつつあり、氷河は急速に減少 世界の屋根ヒマラヤの氷も……。

これらが加速度的に進んでいる状況の中で、それを食い止める技術の展開はどう見てもそのスピードには追い付けない。元に戻せない。

具体的なロードマップを持った炭酸ガス固定化プロジェクトの展開が一日も早くの 때가迫っている。

◆ 広大な森林創生・回復のプロジェクト ◆ 化石燃料の削減を目指すエネルギー・自動車革命

◆ 積極的な炭酸ガス固定化プロジェクトの推進 等々

ターゲット目標は明快であるにもかかわらず、ロードマップのある具体的展開にはいったものはまだないのである。

いずれも国家プロジェクトでなければならぬが、一向にステフアップアップできない。

政治家や企業家に頼っていてよいのだろうか……。

それこそ 地方創生 在野的展開の中からしか この道が辿れないのではないかと

そうでなければ アメリカ ヨーロッパからの技術展開を頼みにせねばならぬのか

地球温暖化 気象の激変をセンセーショナルにとらえる報道や情報は多いが、そのもとになる技術展開やタイムリミットを伝える情報はほとんどない。 そんなところが この不安感を益々増大させていると。

来年はもっと厳しい。 歯止めへの展望はいつに・・・

自分では何もできない年寄にとっては そんな不思議な気持ちにさせるこの秋です。

◎ そんな折 以前にも取り上げたTV番組『夢の扉』の番組をみて、びっくり。

「夢の扉+海流発電・黒潮発電プロジェクト」沖縄科学技術大学院大学OIST新竹積教授

「黒潮から電気をつくる世界的物理学者 新竹 積氏

前人未踏の黒潮発電プロジェクト

～海に眠る巨大なエネルギーを発掘する“オリジナル技術”～

日本近海にある海流「黒潮」 原子炉200基分の潜在エネルギー

→ 海流でプロペラを回す



<http://www.tbs.co.jp/yumetobi-plus/archives/20150906.html>

アイデア技術の段階から 基礎技術を経て具体的な実用技術へ 一步一步実現への道が始まり、

それはさらに裾野の広い展開も視野に。 あえて 研究と言わずにすごい研究開発だと。

政争の具に飲み込まれぬ沖縄での開発展開なのもうれしい。

竹中先生のIPS細胞のようなプロジェクト展開へさらに発展してゆくことを期待。

水産・運輸・交通でしか手が付けられてこなかった広い海 地球温暖化対応の切り札になってほしいなあ・・・・・・と。

それこそ 日本の産業再生のみちにも・・・・・・と。

◎ 鉄にも 同じような広大な地球規模の夢の技術がある。 いまはどうなっているのだろうか・・・

新しい実用化技術としての展開はまだ始まっているとは聞かないが・・・・・・

2011年9月に取り上げたことがある文をご紹介 誰か取り上げてほしいなあ……と。

【2011年9月 from kobe 鉄の歴史に 今の生き方を考える】 2011. 9. 1.

「鉄学137億年の宇宙誌」を読み返してみても頭によぎったことを書きとめました

地球に鉄がなければ人類はいきてゆけず、なにより地球さえも存在しなかったとさえ言われている。

本来 鉄は水に溶けないが、本当に極々少量の鉄が海にとける。このごく微量 水に溶ける鉄がこの地球の歴史ドラマを作ってきたと聞く。この話はほんとうなのだろうか……

森が沿岸の海・魚を育むとよく言われますが、これは土中の鉄分と腐葉由来の酸が結びついた有機鉄が水に溶け出した効果だろう。シベリアの大河からの流氷が、豊かな恵みを与えるのはそのためだと理解される。

また、日本沿岸海域において、海藻群落消失する磯焼けと呼ばれる現象が生じている。

これも溶存鉄の不足などの要因によると考えられている。

自然界においては森林の腐植土中に含まれる腐植物質(フルボ酸、フミン酸)が鉄イオンと結びつき、溶存状態で川から海へと運ばれ、植物性プランクトンはそれを吸収することができ、増殖する。

海水中の鉄濃度の低下は、このフルボ酸鉄・フミン酸鉄の供給量が、護岸工事やダム建設といった人為的な原因で減少することによって生じ、これが海藻群落の消失へとつながると考えられている。

このような 豊かな海の形成に陸上で育まれた「鉄分」が重要な影響をもたらす一方で、最近、海の生態系を研究する専門家の間で「鉄と温暖化」の関係が俄かに注目を浴びている。

- ① 世界の海には植物性プランクトンの栄養分を大量に含みながら、植物性プランクトンの生息が非常に少ない海域がある。
- ② 植物性プランクトンの光合成には鉄分が必須。
- ③ 鉄分の少ない海域に砂鉄などを加えることで、植物性プランクトンが増加。
- ④ 増えた植物性プランクトンがCO₂を消費吸収。
- ⑤ 大気中のCO₂濃度が下がり、気温も下がる。

一説によると、鉄分が不足している海域をうまく活用できれば、年間17億トンものCO₂吸収が期待でき、人類が年間に発生させている全CO₂の約2割が削減できるとしています。

また、約20年前のアメリカの海洋学者ジョン・マーチン博士の研究によると30万トンの鉄を植物性プランクトンの増殖に100%利用できたら毎年蓄積される二酸化炭素の半分以上に相当する約65億トンを有機物や酸素に変換できる[21t(co₂.t/Fe.kg)]という試算を出している。

ややもすると地球上の生態系の頂点に立つとして 横暴な振る舞いをやってきた我々。

「今 原子力・原発をどうするか……」が大きな課題に

「今 人が制御できない技術である」ということが判った以上 これを使い続けることは許されない。

同時に何度も聞かされてきた体制維持の決まり文句

「電力がたらない。経済が破壊される。今の生活が守れない」との声が渦巻いているが、本当だろうか…

人の知恵・歴史がこの「体制維持のむなしさ」と「自分にとってはどうも 別物」であることをことごとく覆してきた。運命論は好きではありませんが、地球の流れにさおはさせぬ。

さおさすことなく 前を向いて 今の生き方を決めねばならない。

「鉄が大きく育んだ地球 この鉄の恩恵にあづかって

我々は 地球上に住むあらゆる生物との共生の中で生きている。」

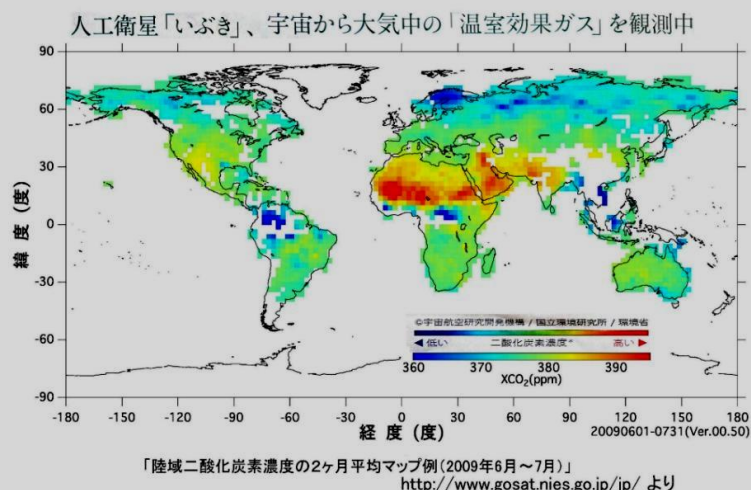
このことを忘れることなく 現代を生きることが今 求められている。

関東大震災の復興・原発事故の収束の試行錯誤が続く中世界を覆う不景気 政治はあいもかわらぬ荒廃 そんな中で ふっと頭に浮かんで 読み返してみた 鉄のはなし

参考 岩波科学ライブラリー「鉄学 137 億年の宇宙誌」

【2011年9月 from kobe 鉄の歴史に 今の生き方を考える】

by Mutsu Nakanishi 2011. 8. 28.



夏 植物の光合成の盛んな北半球の高緯度側の二酸化炭素濃度が南半球より低い。

また、アフリカアフリカ大陸やアラビア半島に見られる高濃度には砂漠の砂塵などの影響。

アフリカ、スカンジナビア、アマゾン周辺の低濃度には薄い雲などの影響により、

系統的な誤差が含まれている可能性もあります。

<http://gosat.nies.go.jp> より

【From Kobe 2015年10月】 《 10月 実りの秋を迎えて 秋晴れの空 戸外へ 》

10月 実りの秋を迎えて 一機に気持ちにも変化が……

From Kobe2015

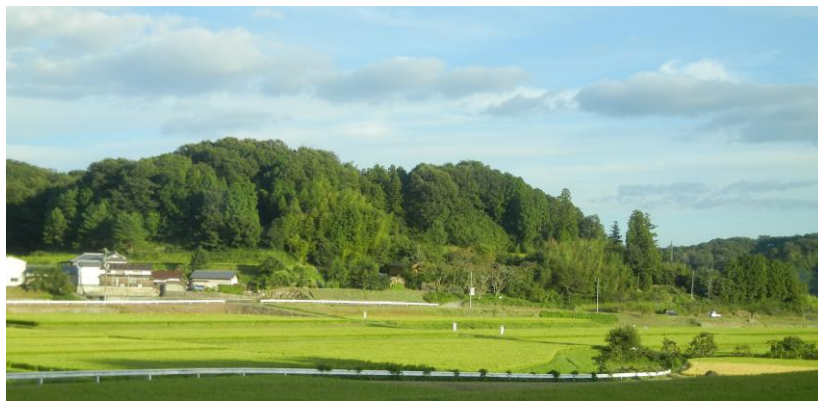
10.

1. 10月 実りの秋に 秋晴れの空 戸外へ
2. ワールドカップ2015 【日本34—32南アフリカ】 世界ランキング3位の南ア破る快挙 凄い
3. 神戸新聞「随想」欄に掲載された 金野幸雄氏の意見「この国の未来」 ご紹介

1. 10月 実りの秋を迎えて 秋晴れの空 戸外へ飛び出して



2015. 9. 19. 京都大原で



東播磨・の風物詩 黄金色に色好き始めた山田錦の里では灘の酒蔵の旗が翻り、畔には彼岸花 三木市吉川で



東播磨多可町 彼岸花の里で 2015.9.23.

2. ワールドカップ2015 【日本34—32南アフリカ】 世界ランキング3位の南ア破る快挙 凄い 積極的に前向いて立ち向かう 勇気とパワーを貰った一戦に釘づけ



2015.9.19.深夜 ワールドカップ2015 【日本 34—32 南アフリカ】 逆転のトライ

「イギリスで開催中のラグビーワールドカップで、日本代表が20日午前1時キックオフの 南アフリカとの試合で 日本 34 - 32 南アフリカ と世界3位の南アフリカを破る快挙を成し遂げた」

あまり明るい話題が少ない昨今ですが、深夜のTVにかじりついて ゲームの信仰を興奮冷めやらずで見っていました。

「今回の代表 今までにない強さ タックルは強いし、スクラムもすごい 見違えるような日本代表チームに期待」と思っていました、まさかランキング世界3位の南アフリカを破るとは夢のよう。

ゲームの開始からすごかった。低いタックルで一発で倒し、立ち向かう集散の速さに スクラムの速い球出しと連続攻撃。これらがミスなく 流れるように連携してつながってゆく。南アに自陣に押し込められながらも、素早い攻撃を展開して、一歩も引けを取らず。 「これが日本なのか いつの間にこんな力付けたのか……」と。すごかったです。

南アのすごい突破カドライブとモールとでトライした南アフリカを見た時にはもう力尽きるのかと思いましたが、良くぞ持ちこたえて、守り抜き、攻め返し、試合終了まで良くぞ持ちこたえた。

また、終了間際 ゴール前とはいえ、PG やめてスクラム選択など、今までの日本の戦いからは考えられぬ選択。このすごいパワーとテクニックそれに持久力と連携 日本にこんな力があつたとは正直思いもよらず。

凄い。久しぶりに見る爽快感。眠い目をこすりながら見た甲斐がありました。

戦い抜いた選手たちに万歳。 また、今まで出来なかったこんなチームを作り上げた指導者たちにも万歳。

うれしくなって、何はともあれ 一緒にラグビー観戦に行く仲間にメール。

仲間からのメールにも うれしさがあふれている。

「メールするだけで涙が出ます。すごいドラマを作りよった！

限界まで耐えに耐える精神力と体力そしてチームワークにキャプテンシー・・・

後のゲームも南ア戦の再現を期待して、睡眠不足に耐えましょう！

改めてラグビーは「楽苦美」。

この10数年 その都度いろんな代表チームが作られながら、「もう海外の強豪には勝てぬ」と思い込んでいましたが、この快挙を成し遂げたこの日本代表チーム。 マスコミや政治家がまた 手のひら返したようにチャホヤ自分勝手に取り組もうとするだろうが、それは何の力にもならぬ。精神論やトップの英才だけではどうにもならなかったに違いない。 このパワー・持続力そして スピードそしてミスのない連携。 何がどう変わったのか また、どんな強化が取り組まれたのか 指導者は何をどうして このチームが出来上がってきたのか さぞかし チーム一丸となった極限的なすごいトレーニング・強化があつたのだろう。

指導者側のアプローチ そして選手の選抜・強化の取り組みについても是非知りたい・・・

それが今直面する日本の諸課題にも 勇気と力を与えるに違いない。

積極的に前向いて立ち向かう 勇気とパワーを貰った一戦 凄いといしか言いようがない。

とにかく ラグビーファンには うれしい1勝 いまだに興奮冷めやらず。

2015.9.20. 朝 目覚めて by Mutsu Nakanishi

参考 ワールドカップ 2015 【日本 34—32 南アフリカ】 感激を今一度

- ◆ internet 動画 日本対南アフリカ 逆転・トライまでの繋ぎ <https://www.youtube.com/watch?v=-OC6jCtuDBs>.
- ◆ internet 動画 日本 × 南ア ラスト 10 分 <https://www.youtube.com/watch?v=HNTaHzJvOXY>



3. 神戸新聞「随想」欄に掲載された 金野幸雄氏の意見「この国の未来」ご紹介

——「地方に暮らす人たちが見据える中央への視点」——

9月19日未明 安保関連法案が参議院で可決成立した。

日本人の好きな言葉「あなただけ特別に & ***の特権」と表裏一体をなす「仲間内 選ばれしものの横暴」
経済評論家 内橋克人氏は「国民蔑視の横暴」と言い放つ。

平和 そして日本の最近の世相について最近ずっと 疑問視した年寄のぶつぶつをつぶやいてきましたが、
先行き本当にどうなるのか……。 「自分なりの意見を持とう 見直してがんばらねば…」と。」

なかなか 自分では 思うことをすっきり 簡潔によ表現しないのですが、へそまがりと言われながらも なんとなく ずっと私の頭にある不安感や不満みたいなものについて、金野幸雄氏が「この国の未来」と題して 実に完結明快に 神戸新聞 コラム「随想」に記されている。 「地方に暮らす人たちから見る中央への視点」についての意見読みびっくりしました。

「私だけやないんや 実に近いなあ 年寄でもええのや」と元気づけられた次第。

神戸新聞 コラム「随想」に掲載された金野幸雄氏「この国の未来」の意見をご紹介します。

正解はなく 人それぞれなのですが、皆さんにはどう映るでしょうか……

現在 緊急課題になっている諸件 マスコミにあおられるのでなく ちょっと立ち止まって 考えてみては……と。

美しい田園風景の中にも、荒廃した空き家が、あるいは自然に還ろうとする農地が散見されて、ああ、この国は遠からず滅びてしまうのだなあという諦念と、少し風変わりだけれど生きのよい若者たちが地域を行き交っていて、あるいは住み着いていて、おお、ここから新しい日本が生まれるかもしれないという希望を、いま同時に抱いている。

この国の未来

金野 幸雄

再生するのである。

都市を飾り立てる代わりに山河は荒らしてもよいろしいと思いたず、それが健康な考え方とは思えないけれど、実際にそのような国土が実現しようとしている。都市とは国土面積のたかだか5%にすぎないのだが、そこに人口の7割が住んでいて、この国のあり方や制度を決めている。この国の価値観を形成している。95%を占める農山漁村は、都市が経済合理的に利用する対象となつていて、あるいは経済合理的に廃棄すべき対象となつている。

けれども地方に来て、都市の狂騒を眺めてみるとよい。そして土地の精

霊と過ごしてみればよい。土間に差す光、稲田を渡る風、鳥のさえずり。秋まつり、コミュニティ。戦後70年、日本社会が競って捨ててきたものがここにはまだ残つていて、もしそれが貴重な資産であるのだとしたら、新しい時代の価値観は農山漁村が創るのである。このコラムでは希望について書いてみたい。



きのの・ゆきお 一般社団法人ノオト代表理事。1955年徳島県出身。東京大学工学部土木工学科卒。82年、兵庫県庁入り。2007、11年、篠山市副市長。11年、14年、流通科学大学特任教授。09年にノオトを設立。代表理事に就任し篠山や豊岡、朝来市などで古民家の再生やまちづくりなどに取り組む。

随想

【 From Kobe 2015 年 11 月 】 2015 年秋便り

1. 2015 年秋便り
2. 久しぶりに海外 台北の街へ
3. 山口県西長門 懐かしい 特牛の港のこと
4. またぞろ起きたモノづくり現場の偽装問題 この中に潜む日本の体質

From Kobe2015

11.

1. 2015 年秋便り



2015 年の深まりゆく秋 真っ青な空に野山も里も紅葉が始まり、秋真っ只中
スポーツに また 自然を訪ねて 戸外に遊ぶのもよし
秋の日暮れは つるべ落とし 自室にこもり 秋の夜長をゆっくりと過ごすのもよし



2. 久しぶりに海外 台北の街へ 大学同窓仲間と



久しぶりに海外へ 台北にいる仲間が招いてくれて 同窓の仲間 15 人ほどで台北へ

飛行機の切符も通関もそして飛行機も見るもの聞くものみんな新しく 完全なお上りさん状態で行ってきました。

台北は高層ビルが立ち並ぶ大都会 かつての日本統治時代の建物も緑の中に点在する美しい街。街の標識はみな漢字だし、みんな本当に親切で、神戸の街を歩いているのと変わらず。自動車社会になったとはいえ、通勤ラッシュのバイクの列は かつて 東南アジアの街で見たのと同じ。 活気あるアジアの大都会でした。

一番びっくりしたのは 大都会にありがちなスラムが全く見られず、食事の安さにも。 台湾ビールに紹興酒を飲んで 台湾料理も口に合って 念願の故宮博物院にも行ってきました。



台北の街歩き 2015. 10. 19. & 10. 20.

台湾が取り巻く環境は複雑 国民党政権化で戒厳令の下大陸と対峙した時代を経て、大陸との交流が蜜月の時代にはいり、経済ばかりでなく、人的交流も盛んで 数多くの大陸の人達が今 台湾に押し寄せている。

一方 街には 蒋介石・国民党の功績をたたえる巨大モニュメントもあり、香港のように大陸の一部に組み込まれてゆくのか

それとも大陸から独立独自路線を維持するのか 来年 1 月に総統選挙 台湾の人達の思いは複雑と。

今のところ 大陸との融和路線をとってきた国民党政権に代わって、現状維持独自路線の新民党が優勢と聞く。

戦後 国民党とともに大陸からやってきた人たち そして国民党政権化で戒厳令で抗日・抗大陸を経験し、厳しくも清廉な日本統治時代を懐かしむ高齢層 そして戦争を知らず台湾の繁栄をまのあたりしてきた若者たち

それぞれの思いを込めた総統選挙。そんな 台湾の人達の思いも垣間見てく来ました。 でも 本当に日本人には親切。情報社会の真っただ中の日本にいますが、やっぱり 想像をめぐらすだけではだめだと。



《台湾・台北の印象》

- ◆ 台北市街地が本当に美しく整備され、大都市にありがちな貧民街が見られなかったことに台湾の今の裕福を感じました。また、一戸建ての住宅がほとんど見当たらず、新旧取り混ぜた高層住宅群であることや、台湾も日本度同じく高齢化が進んでいると思っていましたが、巷に高齢者が少なく、若者が多いのにもびっくり。
- ◆ 地下鉄網・台鉄・台高鉄が集約され、地下に収まる路線網。そして大規模な地下街や基盤の目の広い道路・交通網をた精もあるが、インフラ整備・IT化が日本以上に進んでいるとの印象。ここでも日本優位はすでに崩れていると。
- ◆ 知っているようで知らなかった故宮博物院の宝物。ガイドさんが「豚の角煮と白菜」というのを一体なんや??? と思っていましたが、メノウ・翡翠原石から切り出された宝物。本当にみためにもそっくり。これは宝物や……と。
- ◆ 台湾料理に紹興酒・ビールも楽しみでしたが、本当においしかった。どちらかというと中華料理はこってり系と思っていましたが、あっさり系で実においしかった。紹興酒に台湾ビールも
- ◆ 台北市内名所ツアーはよく知らなかった台湾の現実を知る本当に良い機会でした。
 - 大陸からあんなに沢山の観光客が台湾に押し寄せているとは全く知らず、意外。台湾と大陸の共存融和路線のすごい進展にびっくり。知りませんでした
 - 蒋介石の記念堂 中正記念堂と台北228記念館 で知った台湾の今の現実
 - 街の随所に残る旧日本統治時代を今に残すレンガ色の建築物群と旧日本統治時代に愛着を寄せる親日の人達とその高齢化。そして街角で接した本当に親切な台湾の人達。大陸の人達のイメージとの落差
 - 台湾の夜市は初めて。東南アジアの夜市を思い出しながら久しぶりの感覚を楽しみました。夜の街も地下鉄も全く気にせず歩ける台北の街
- ◆ 徴兵制が時代とともに大きく変化し、若者の意識も大きく変化する今、
大国主義を掲げ、世界経済をも左右する伸展を遂げた大国中国とどう向き合っていくのか???
大きな岐路にある台湾。現実と向き合わねばならぬそれぞれの世代も複雑な思いの中にあること理解
本当にむづかしいと...台湾にきて 初めて知った現実です。

台湾 2.28事件と228記念館(旧台湾放送協会本部)

展示写真など撮らなかったので記述のみ

インターネット 台北二二八記念館 <http://www.taipeinavi.com/miru/34/> に
展示詳細が記述されているのでそちらをご覧ください。

二二八事件とは、蒋介石・国民党政府が40年にもわたる戒厳令を敷くことになったきっかけであり、外省人(戦前から台湾にいた人)を虐殺した事件である。



二・二八事件(にいにいにはちじけん)は、1947年2月28日に台湾の台北市で発生し、その後台湾全土に広がった。当時はまだ日本国籍を有していた本省人(台湾人)と外省人(在台中国人)との大規模な抗争。1947年2月27日、台北市で闇菸草を販売していた本省人女性に対し、取締の役人が暴行を加える事件が起きた。これが発端となって、翌2月28日には本省人による市庁舎への抗議デモが行われた。しかし、憲兵隊がこれに発砲、抗争はたちまち台湾全土に広がることとなった。本省人は多くの地域で一時実権を掌握したが、国民党政府は大陸から援軍を派遣し、武力によりこれを徹底的に鎮圧した。1945年に日本が敗戦した後の台湾には、連合国軍の委託を受けて、日本軍の武装解除を行うために大陸から蒋介石率いる中国国民党政府の官僚や軍人が進駐し行政を引き継いだ。当初、少なからぬ本省人が台湾の「祖国復帰」を喜び、中国大陸から来た国民党政府の官僚や軍人らを港で歓迎したが、やがて彼らの腐敗の凄まじさに驚き、失望した。大陸から来た軍人・官僚は国共内戦の影響で(精鋭と呼べる人材は大陸の前線に送られており)質が悪く、強姦・強盗・殺人を犯す者も多かったが、犯人が罰せられぬことがしばしばあり、もし罰せられる場合でも、犯人の省籍をマスコミ等で報じることは厳しく禁じられた。また、台湾の資材が中国人官僚らによって接収・横領され、上海の国際市場で競売にかけられるに到り、台湾の物価は高騰、インフレによって企業の倒産が相次ぎ、失業も深刻化した。不正の少なかった日本の統治を体験した台湾人にとって、治安の悪化や役人の著しい腐敗は到底受け入れがたいものであった。人々の不満は、いやが上にも高まっていった。当時の台湾人たちは、「犬去りて、豚来たる(中国語:狗去猪来)」と揶揄した。
(意味:犬(日本人)はうるさくても役に立つが、豚(国民党)はただ貪り食うのみ)

インターネット ウィキペディアより

ガイドさんの話や展示で受けた私の印象とほぼ同じ記述だったので、転載させていただきました

複雑な政治情勢下に置かれる台湾。本省人と言われる人の中にも強く複雑な思いがあることを知りました。また、今の経済情勢そして、あの数多くの大陸からの観光団。そして戦争を知らぬ若者層と高齢者との間隔のずれ等々。
今台湾の方向が強く意識されている時代に、台湾の中も本当に複雑なんだと初めて知りました。



2015.10.19&20 台北で撮ったスナップ

3. 特牛イカの水揚げ港 山口県西長門海岸「特牛」の港

NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て 2015. 10. 23.



「特牛」と書いて、「こっとい」と読む。「特牛港」に「特牛イカ」って ご存じでしょうか??

山口県の日本海側 西長門の美しい海岸沿いにあり、すぐ東の油谷半島は阿部総理の故郷でもある。

JR 山陰線の「特牛駅」は日本一難解の駅としても有名。

その「特牛漁港」が、NHK の定点観察ドキュメント番組「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」として放映された。

イカの大漁場 響灘に日本各地から集まるイカ釣り船が、鮮度が命のイカを特牛漁港に急行してセリにかける。そんな特牛漁港に入るイカ釣り船の漁師さんたちを 72 時間を追う番組だった。



私が約 10 数年前 山口県的美祢で仕事をしていた時、美しい夕日と海流が流れるのが見られる美しい海岸として、何度も通った港で、この港にスポットが当たるなんて・・・とびっくり。

今はもう美しいコンクリートのアーチ型の橋が架かったが、当時は向かいの角島への連絡船があり、イカ釣り船の漁港としてもちょっとは知られた小さな漁港でしたが、その後、角島に橋が架かり、神戸に帰ったこともあり、特牛の港も忘れかけていたところでした。でも、特牛港というと今もイカ釣り船がすぐ頭に。この山口美祢時代の生きた剣先イカは本当に美味で、今やイカの刺身は私の大好物。 家内は美祢の時代に街の魚屋さんに教えてもらって この生きた剣先イカやスルメイカの表面の皮をはいで、くるくると身を丸めて冷凍保存。好きなときに解凍してイカのサシミを食べる技も身に着け、いまでも冷蔵庫にはそんなイカが入っている。そんな 街でいつでも手に入った西長門のイカが、今や「剣先イカの王様 特牛イカ」としてブランド化され、東京や大阪などで、ひっぱりれだこの高級イカ。 高値を狙う日本各地の漁船が先を争って、この特牛の港で水揚げし、またすぐ漁場にもとってゆくという。ここに上がったイカだけが「特牛イカ」と名乗れるビックリのビジネスモデルが構築されていると聞く。

最近山口へ行く機会もなくなって、ちょっぴり寂しくなっていた時のうれしいニュースに目を凝らしてみました。

夜 コウコウと明かりをつけ操業するイカ釣り船が夜の海に点々とともす漁火もまた、懐かしい。

久しぶりに よく通った西長門の海岸 特牛港の賑わいを聞いて、うれしくなって 11 月の便りに。

この西長門海岸 今は角島大橋と角島海岸が美しいスカイラインとして 若者たちに人気になりましたが、

日本海に沈む夕日とともに 美しい海岸線を眺めながら、すぐ北にある角島との間をゆったり海流が流れてゆく様を眺め、ゆったりと長門の温泉につかる一日も忘れられぬ山口・美祢の時代の思い出。 機会があれば、ぜひ一度どうぞ

2015. 10. 23. NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て

4. またそろ起きたモノづくり現場の偽装問題 この中に潜む日本の体質

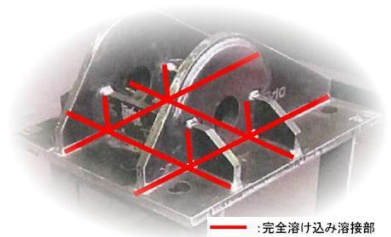
この夏 京都市内の道路橋2橋の耐震補強工事で、補強部材に溶接不良による亀裂が見つかった。すぐに問題が起これないが、完全溶け込みの溶接設計部をどうも意図的に部分溶け込み溶接で済まされた部品だといい、この部品を作った会社ではほかの橋の部品にも同じような施工が行われていたという。表面から見た目ではわからぬ意図的な施工のようだ。またしても 溶接部で意図的な偽装施工が行われたか……と。

溶接と常にかかわって仕事をしていた私にとって、高度成長の終末期 IT・国際競争・コスト・スピード・人員削減を至上至上命令とされ、現場が疲弊していった時代が頭に浮かんでくる。 またも繰り返すのか… それも溶接が最初にやり玉に…との思いがある。

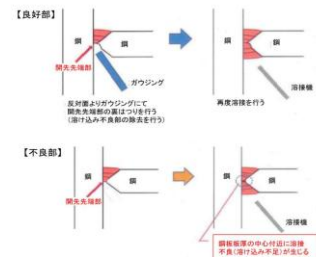
納期・コスト・人材など厳しい締め付けが行われる施工現場。時代がおかしくなってくるといつも一番弱いところから こんな問題がいつも露呈する。

時代の変わり目 変な時代の今「他の分野からも同じような問題が続々と出てくるだろうなあ…」と思っていたら、耐震ゴムの品質偽装に マンションの基礎くい打ち偽装と次々大きな社会問題を引き起こしている。

そして、こんなことは絶対しない国民性だと思っていたドイツの巨大企業フォルクスワーゲンまでも。バラ色のグローバルな情報社会とは こんな社会なのか……と。



【完全溶け込み溶接イメージ】



御多分に漏れず、問題を引き起こした一企業のそれもその現場が全責任を負わされ、それで幕引きか?・・・おかしいぞ そんな現場環境にしたルーツ原因はなになのか??? 張本人は誰だと。

問題が発覚して 精通せぬ検査提出書類を調べただけでも いくつも不審点が出てきている。

ましてや 施工検査書類を提出させた元受サイドはなぜ見抜けぬのか…。そうではあるまいと勘繰りたくなる。少なくとも検査書類など 作業の完工承認を出したサイドの責任は共同であろう。

今 日本では「日本のモノづくりは世界一」とのキャンペーンが、いたるところで張られ、毎日毎日 聞かされる。これは本当だろうか???? 強がり。このギャップの大きさ。

政治家と一緒にあって世界一と浮かれている場合ではない。凝りもせず またしても同じパターンの構図がうかがえる。今も苦しむ原発福島の実業現場も同じだろう。

現場を精通せぬ人たちが、現場を論じることのむづかしさ。現場を知らぬ幹部が現場を知っていると思い込んでいるのが一番厄介だ。そんな局面を何度か 眼にしたことがある。言葉ではなく中で本当に人を育てないと何にもならぬ。そんなプログラムを自分で持ち、現場に眼を向ける会社幹部が本当にいるのだろうか……。

眼は国際競争 global 情報・金融 そして市場の極端な至上主義になっていないだろうか……。

そんなレベルの社外監査機構を社内に持っても何の役にもならぬ。

製造現場をそのまま擁護するつもりはないが、根本のところ、常にblack ボックス神域化され、毎度生かされない日本の体質。東京の論理に歯止めをかけないと それこそ沈没だ。

昔 アメリカのあるメーカーでは それこそ 幹部から末端まで「Copy Exactly」の言葉が浸透した製造現場が構築され、実践されていたのを思い出す。弊害もあるが、その現場ラインを守る頑固なまでの厳しさには脱帽した経験がある。実を知ろうとしない「生半可な新しものがり 都合のいい組み合わせ」が本当の「モノづくりは世界一」だろうか……。そんな岐路にある日本のモノづくり。今 立ち止まって考えないとそれこそ世界から取り残されるだろう 地方から そして若者から いでよ 新しいモノづくり世界一 それが日本モデルになる日を期待。

溶接と長くかかわってきた私にとって つい溶接の話となると頭の中がぐるぐる回って、秋の夜長 ああでもない こんなこともあったと… つい ぶつぶつです。

2015. 11. 6. 秋の夜長 マンション基礎杭の偽装に頭を巡らしながら Mutsu Nakanishi

【 From Kobe 2015 年 12 月 】

2015 年 師走の便り 《格差を縮める社会の実現を》

From Kobe2015

12.

1. 2015 年 師走の便り クリスマス & ルミナリエに思う
2. 沖縄の思いに耳を傾けよう 東京・一極集中の弊害が露骨に
沖縄普天間基地移設工事に関する沖縄県と国との法廷闘争
3. シリコンバレーに見るすさまじい格差社会の現実



《1. 2015 年 師走の便り クリスマス & ルミナリエに思う》

毎年 12 月になると 今年一年をあれこれ思い浮かべながら 「仲間の元気を活力に!!」とクリスマスカードを作ります。
グローバル・高度情報化社会と日本の成長繁栄が声高に叫ばれる今、なにか 満たされぬ閉塞感から脱する新しい道を今踏み出さねば・・・・・・と。

人間の人間たる所以は「他人を思いやる心」。人は心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった。

それを「愛」という人もいる。今 厳しい競争社会の中で それが大きく揺らぎ、忘れ去られてきた。

グローバル・高度情報化社会繁栄の流れの中で、地球温暖化はもう抜き差しならぬ状況になり、
極端な格差社会が新興国のみならず、先進国でも軒並み 貧困差別と争いを引き起こしている。
これが人類が追い続ける未来繁栄の道なのだろうか???

日本では 東京一極集中が抜き差しならぬ状況の中 いまだにそれを追い続ける日本。

「一億総活躍社会」の掛け声にも首をかしげたくなる未来不安の世相が蔓延する。

今 出口を見出す転換をしないと人類・地球滅亡への道の縁にいる。

「他人を思いやる心」を新しい価値観と考える人も増えつつある。これを次の世代へ伝えねば。。。。。。
人類の歴史の中で 他に類を見ない1万年という長きにわたる争いのない平和な継続社会「縄文」を築いた日本。
今こそ 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心と知恵を取り戻そう。

神戸では 今年も 未曾有の震災の中で培われた人と人とのつながりの証し「ルミナリエの灯」が灯りました。
心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった人類。その繁栄の道はただ一つ「他人を思いやる心」。

今一度 家族・仲間を そして世界平和の道を思い浮かべながら、今を生きたいと願っています。

そんな思いを含めた2015年クリスマス

知人の家のクリスマス飾りが素晴らしく、今年はそれをカードに使わせていただきました。

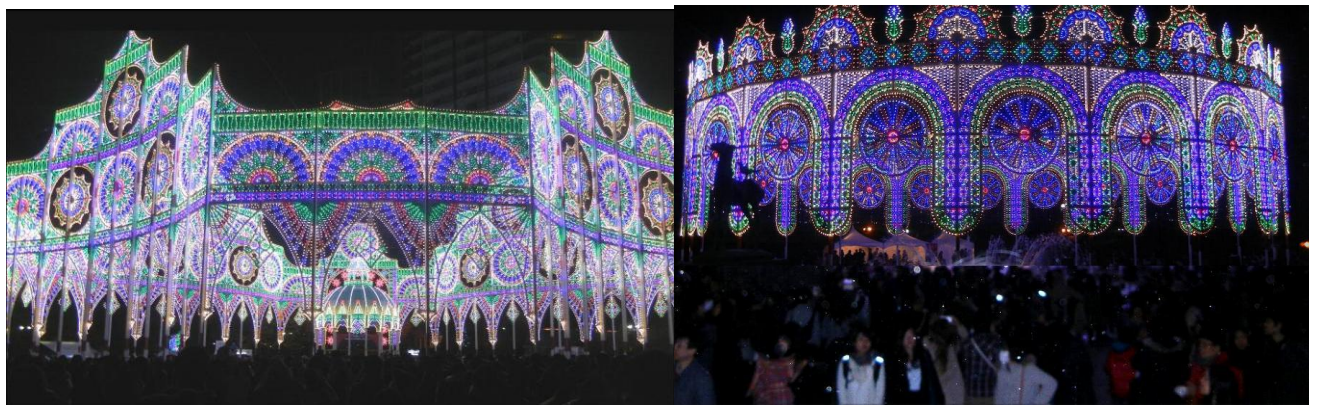
ルミナリエも 例年とは違ったLEDの光の色合に 20年を超えた時代の流れを感じています。

お互い 無理せず 元気に 前向いてと。

2015.12.10. Mutsu Nakanishi from Kobe



神戸ルミナリエの光の環の中で 縄文の心の環を見る
絶やすまい忘れまい希望の灯 神戸ルミナリエ



世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に

今年もルミナリエの灯が神戸に灯った。震災から2つてています。1年 鎮魂から未来希望の光の環へ
ルミナリエの光の環の中に入って、この環は縄文のストーンサークルの現代版だと。

世界に類のない一万年もの長きに平和で豊かな生活を持続させた縄文 その原動力は「他人を思いやる心」。

今 世界でも、日本の縄文時代の再評価が始まっている。神戸 ルミナリエのテーマも同じではないか。。。。

欲望・競争の渦から抜け出し、希望の未来へ

「他人を思いやる心」 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心を今取り戻そう。

《2. 沖縄の思いに耳を傾けよう 東京・一極集中の弊害が露骨に》

神戸新聞の社説に沖縄普天間基地移設工事に関する沖縄県と国との法廷闘争に関して 翁長沖縄県知事の意見陳述の内容についてのコメントが掲載されていた。

国と地方の関係について、これほど地方を無視した対応はかつてなく、「中央のおごり」とでもいうべき態度と対応に中央の「村社会」復活 村八分的な格差社会がますます露骨になっている一番の例のように見える。

すぐに民意・多数決の原則を振りかざす中央の民主主義が本物なのかどうか・・・一度 よく考えねば・・・

一方 国際・グローバルの最先端を行くアメリカ シリコンバレーでは

目を覆うばかりの格差社会が出現すると同時にグローバル企業の横暴が目に残り、

「グローバル企業の論理は決して住民を幸福にはしない」との現実と直面しているとのニュースを見た。

あの IT 先端産業が国の繁栄を引っ張ったシリコンバレーでは 今グローバル化・国際化し、繁栄を謳歌する大企業群によって街は著しい格差・村社会の現実とさらされ、大多数の住民が取り残され、幸福を享受できない状況が現実に見えだしている・・・。大きな格差社会を生み出したグローバル化・国際化が、本当に人々を幸福に導くのか？

今アメリカ社会は 危機に直面していると・・・。

これは さらに アメリカ一辺倒の日本の未来をこのシリコンバレーの現実が示唆しているように見える。

年寄りのたわごとかもしれませんが、今は 本当に数にものをいわした薄っぺらな都合主義的判断が、主流に見えて仕方がない。日本でも 一度立ち止まって じっくり考えることが必要ではないかと

by Mutsu Nakanishi

神戸新聞の社説岸記事 翁長知事陳述／国民全てへの問い掛けだ

米軍普天間飛行場（中嶋県宜野湾市）の移設計画をめぐる、国と県による異例の法廷闘争が始まった。

移設先の名護市辺野古の埋め立て承認を取り消した翁長（おなが）雄志知事による処分について、

国が撤回を求めた代執行訴訟の第1回口頭弁論が、福岡高裁那覇支部で開かれた。

訴訟で争われるのは知事による取り消し処分の是非である。安全保障や外交分野で、知事に判断権があるのかどうかも争点だ。

だが、法廷で意見陳述した知事が重きを置いたのは、国が掲げる法律論ではなく、「魂の飢餓感」と表現する沖縄の心情だった。国土のわずか0・6%に73・8%の米軍専用施設が集中している。過重な基地負担を強いられてきた歴史をたどりながら、地元民意に反して進められようとする辺野古移設の不条理を訴えた。

裁判の原告である国だけに向けられたものではない。国民全てに対する問い掛けと受け止めるべきだ。

私たち一人一人が、沖縄の声にしっかりと耳を傾け、解決への道筋を考えることが重要だ。

訴訟で県側は移設を憲法違反と位置付ける新たな論点も持ち出した。

移設先周辺の住民の自治権が大幅に制約されるにもかかわらず、地元の承認も国会審議もなしに計画を進めるのは、憲法が定める地方自治の原則に反するとの主張だ。

複数の選挙で反対の民意が示されたにもかかわらず、国が強硬に進める辺野古移設を、翁長知事は地方自治の危機と訴えてきた。沖縄だけの問題ではないと他の自治体の理解を求めてきた。しかし、わがこととして考えた自治体はどれほどあったか。国が進める事業を止められるわけがない、という姿勢では、自治権が揺らぐのを傍観することになる。

1999年の地方自治法改正で、国と地方の関係は「上下・主従」から「対等・協力」へと変わった。

「日本に地方自治や民主主義は存在するのか」という知事の問い掛けを、正面から受け止める必要がある。

菅義偉官房長官は「対話の余地がなかった」とし、やむを得ず訴訟に踏み切ったと強調する。

しかし、県との接点を見いだせず、解決を図れなかった責任は重い。

国は対話による解決を望む世論に応え、事態を打開する努力を続けるべきだ。

格差対立、第2 機械時代の痛みに直面するシリコンバレー

インターネットの記事より

1. シリコンバレーの現実 彼らが日本で豪遊できるワケ「1900 円のランチ?安いね」の現実

最近、シリコンバレーからの人と会うことが多い。彼らは、日本はお気に入り、大満足して帰っていく。というも、安いからだ。

先日は、ランチミーティングをした。丸の内のいわゆるちょっと高級ランチゾーンのお店にいった。最低の値段が 1500 円、といった感じのレストランだ。日本は、だいたい「半額」。もうすぐランチタイム。彼はメニューを見るなり、とても安いといって、1900 円のセットを頼んだ。我々にとっては、それなりに高いランチだ。

「日本は、素晴らしい。この内装、雰囲気、ちゃんとしたサービスがついていて、チップもないし、それでいて、15 ドルちょっと（1900 円のこと）だし」シリコンバレーでこんな感じだといくらするの?と聞き返してみた。「そうだな、30 ドルは最低でもかかるな。ドリンクやチップは別だし」だという。

ドリンクと、20%のチップ、8%前後の消費税をくわえると、4500 円くらいになると思う。ランチに 4500 円である。「もちろん、物価の高さはクレージーだけれどもね。ミーティングのために入ったホテルのスムージーが、なんと 23 ドルだったんだ」（同様にチップ税金をいれたら 3500 円くらいになると思う）シリコンバレーの物価のあまりの高さには、彼も辟易としているようではあったが、実際そうなのだからしょうがない。そして、日本は、だいたい「半額」という感じの捉え方ようだ。日本が半額、これは衝撃的だ。



こんなことが 一般住民から切り離されたシリコンバレーの村社会の中では普通なのだ。村から締め出された大多数の人たちの現実 「明日は我が身」がふと頭をよぎる。。。。。

2. 格差対立、第2 機械時代の痛みに直面するシリコンバレー

インターネットの記事より

下の写真は、シリコンバレーのマウンテンビュー駅(カリフォルニア州)の裏側にある建物だ。

2 月に WhatsApp の Jan Koum 氏 (CEO) が Facebook への売却(190 億ドル)に合意した際、契約書にサインした場所である。

母親と共にウクライナから移住してきた Koum 氏は、生活保護のフードスタンプを受給できるほど苦しい生活を送っていた。床掃除の仕事などをしながら、独学でコンピュータネットワークを習得し、そしてアルバイトのセキュリティ検査で Yahoo!を訪れた時に知り合った Brian Acton 氏と WhatsApp を作り上げた。契約書にサインするために選んだ建物は、かつてフードスタンプを受け取るために通った社会福祉事務所だった。



契約の様子を伝えた Business Insider は「WhatsApp の CEO が 19 億ドルの Facebook との契約に署名した場所が示す到達点の高さ」という見出しを付けた。

この記事を読んだ人は、シリコンバレーにアメリカンドリームの可能性を感じるかもしれない。

でも、地元の人たちはこのエピソードからアメリカンドリームが難しくなった“今”を思わずにはいられない。

Koum 氏がティーンエイジャーだった頃のマウンテンビューはパロアルトやスタンフォード、サンノゼの間にあるシリコンバレーのすき間の街で、アイディアで勝負するスタートアップが最初のオフィスを構えるのに適した街だった。

ところが Google 本社の城下町として発展し始めてから庶民色は霧散し、今では平均的なアパートの家賃が 2000 ドルを超える。空き物件に入居するのは Google や Microsoft、Symantec など IT 大手の社員ばかり。

